

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する
現状調査

報 告 書

目次

調査実施概要	4
<回答者の属性>	5
1. 調査結果	
質問1 「外国語活動及び英語活動の担当者」について	8
1-1 現在の外国語活動及び英語活動の担当者	8
1-2 今後外国語活動及び英語活動を展開する際に望ましいと思われる担当者	9
1-1 と 1-2 の比較 ～総合比較～	10
1-1 と 1-2 の比較 ～設置者別比較～	12
質問2 1・2年生の英語活動について	15
2-1 1・2年生の英語活動についての考え	15
2-2 2-1で「1.5・6年生同様に必要」「2.時間数が少なくても必要」「3.どちらかといえば必要」を選んだ理由	17
2-3 2-1で「5.どちらかといえば必要ない」「6.必要ない」を選んだ理由	18
質問3 外国語活動及び英語活動に関する「教員研修・自己学習」について	19
3-1 今年度の外国語活動及び英語活動に関する研修会や研究発表会への参加（実施）状況	19
3-2 現在参加されている教員研修（または自己学習）	20
3-3 最も必要と思われる教員研修の内容	21
質問4 5・6年生の外国語活動における「モジュールの活用」について	22
4-1 外国語（英語）の授業におけるモジュールの活用についての評価	22
4-2 4-1で「1.よい（または効果的だ）と思う」を選んだ理由	23
4-3 5・6年生の外国語活動が教科化された場合、望ましいと思われる1週間あたりの時間及び形態	24
質問5 5・6年生の外国語活動における「ICT（デジタル）機器及びその他の機材」の使用について	26
5-1 ICT（デジタル）機器及びその他の機材の使用状況	26

5-2	5-1 で「1. 使用している」を選んだ方	27
5-2-1	先生または児童が現在使用している ICT 機器及びその他の機材	27
5-2-2	授業 1 時間（45 分）あたりの使用時間	28
5-3	先生または児童が将来使用したい ICT 機器及びその他の機材	28
5-2 と 5-3 の比較	～総合比較・先生が使用～	29
5-2 と 5-3 の比較	～総合比較・児童が使用～	30
5-2 と 5-3 の比較	～設置者別比較・児童が使用～	31
質問 6	「5・6 年生で読み書きを含めた指導を行う」ことについて	32
6-1	5・6 年生で読み書きを含めた指導を行うことについての賛否	32
6-2	6-1 で「1. 賛成である」「2. どちらかといえば賛成である」を選んだ理由	33
6-3	6-1 で「3. どちらかといえば反対である」「4. 反対である」を選んだ理由	35
質問 7	5・6 年生の外国語活動における「評価」について	36
7-1	現在の外国語活動における児童への評価材料	36
7-2	外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査（テスト）が必要か	39
7-3	7-2 で「1. 必要だと思う」「2. どちらかといえば必要だと思う」を選んだ理由	40
7-4	7-2 で「3. どちらかといえば必要だとは思わない」「4. 必要だとは思わない」を選んだ理由	42
質問 8	5・6 年生の外国語活動における問題や課題について	43
質問 9	5・6 年生での外国語活動が順調に進んでいるかについて	46
質問 10	外国語活動及び英語活動の導入による影響や変化について	47
2.	調査票	51

調査実施概要

1. 調査機関

公益財団法人 日本英語検定協会

2. 調査実施機関

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

3. 調査テーマ

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

4. 調査対象

全国の小学校（国・公・私立）から抽出した 3,000 校

5. 調査目的と質問内容

平成 23 年度より小学校高学年に外国語活動が導入され 4 年以上が経過し、さらに中・低学年の英語活動への取り組みにも変化が起きている。現在の小学校現場において、カリキュラムの編成・指導方法・教材の選択・研修及び小中連携などについて、どのような取り組みを行っているのか、また、どのような不安要素や課題を抱えているのかを、外国語活動及び英語活動等に関する設問によるアンケートを実施し、現状を浮き彫りにする。

また、2020 年を見据えて発表された、文部科学省による小学校の英語教育の方針（5・6 年生の正式な教科化等）に関する設問から、小学校現場の反応や意見を集約する。

なお、今年度調査と昨年度調査との異同点は以下の通りである。

質問 1-1、1-2……昨年度と同じ質問《昨年度の間 3-1、3-2》

質問 2-1、2-2、2-3……昨年度と同じ質問、対象を 1・2 年生に限定《昨年度の間 2-2、2-4、2-3》

質問 3-1、3-2、3-3……昨年度と同じ質問《昨年度の間 5-1、5-2、5-4》

質問 4-1、4-2、4-3「モジュールの活用について」……今年度新設問

質問 5-1、5-2-1、5-2-2、5-3「ICT 機器などの活用について」……昨年度の間 4 を大幅に改題。

昨年度は ICT 機器に限らず、広く外国語活動・英語活動の使用教材を調査対象としたが、今年度は ICT 機器に絞り、その使用状況などを調査した。

質問 6-1、6-2、6-3……6-1 のみ選択肢の内容を変更《昨年度の間 9-3-1、9-3-2、9-3-3》

質問 7-1、7-2……昨年度と同じ質問《昨年度の間 6-1-1、6-1-3》

質問 7-3、7-4……昨年度の間 6-1-3 の回答をもとに新設問

質問 8……昨年度と同じ質問《昨年度の間 8》

質問 9……昨年度と同じ質問《昨年度の間 10》

質問 10……昨年度と同じ質問《昨年度の間 11-1》

6. 調査期間

平成 27 年 12 月～平成 28 年 1 月

7. 調査方法

送付・回収ともに、郵送による記述アンケート方式

8. 送付数・回収結果

調査対象	送付数	回収数	回収率
国・公・私立小学校	3,000 件	1,144 件	38.1%

(内訳) 「回収数」については下記以外に設置者別無回答が7件あり

国立	73 件	28 件	38.4%
公立	2,711 件	1,020 件	37.6%
私立	216 件	89 件	41.2%

<回答者の属性>

(N=1,144) 無効回答があるため合計が1,144に満たない場合がある
記述回答は、他の回答と矛盾すると思われるものも記述どおりに記載

属性 1

◎都道府県別回答校数

都道府県	回答校数	都道府県	回答校数	都道府県	回答校数
北海道	63	石川県	11	岡山県	24
青森県	22	福井県	16	広島県	31
岩手県	28	山梨県	13	山口県	12
宮城県	30	長野県	25	徳島県	8
秋田県	12	岐阜県	19	香川県	9
山形県	8	静岡県	28	愛媛県	8
福島県	32	愛知県	43	高知県	11
茨城県	29	三重県	21	福岡県	28
栃木県	21	滋賀県	13	佐賀県	12
群馬県	14	京都府	19	長崎県	19
埼玉県	32	大阪府	33	熊本県	21
千葉県	47	兵庫県	44	大分県	12
東京都	58	奈良県	15	宮崎県	13
神奈川県	52	和歌山県	7	鹿児島県	32
新潟県	32	鳥取県	9	沖縄県	16
富山県	12	島根県	12	無回答	68

属性2

◎回答校の設置者 (校)

国立	28
公立	1,020
私立	89
無回答	7

◎上記のうち小中一貫校の数 (校)

国立	1
公立	19
私立	43
合計	63

属性3

◎回答者の職位 (名)

校長	21
副校長・教頭	165
主任	161
教員	759
ALT (外国人指導助手)	0
JTE (外国語活動指導員)	6
非常勤教員 (ALT・JTE 以外)	6
外国語活動以外の講師	12
その他 (※)	8
無回答	1

他に無効回答 5

※「その他」の記述の内訳

(名)

主幹教諭	3
臨時講師	1
常勤講師	2
英語専科教員	1
記入なし	1

属性4

◎回答校の規模 (校)

50名未満	125
50名以上～100名未満	138
100名以上～200名未満	208
200名以上～500名未満	403
500名以上～800名未満	212
800名以上	52
無回答	5

他に無効回答 1

属性5

◎回答者の年齢 (名)

20代	232
30代	261
40代	305
50代以上	343

他に無効回答 3

報告書の記述等に関する注意事項

- ◎本調査と同様の調査を昨年度も実施している。本調査報告書では、昨年度調査結果との単純比較や数値比較が可能な設問においては、その変化についてのコメントも記載した。
- ◎発送数削減によるサンプル数減少のため、母数が少ない場合は、データの分析とコメントを省いたものがある。
- ◎「今年度」は平成27(2015)年度、「昨年度」は平成26(2014)年度、「一昨年度」は平成25(2013)年度をそれぞれ指す。
- ◎集計に際して、パーセンテージ計算の母数は設問の内容により異なる。母数については設問ごとにN=〇〇という形で示した。
- ◎パーセンテージは、小数点第2位で四捨五入したもので、択一質問であっても、選択肢ごとのパーセンテージの合計が100%にならない場合がある。
- ◎本報告書ではパーセントで表された複数のデータを比較する場合、その差を「ポイント」(正式名称は「パーセントポイント」または「パーセンテージポイント」)で表記した。(例:10.5%と40.7%の差は30.2ポイント)
- ◎必要に応じて設置者(国・公・私立)別のデータ解説と集計表・グラフを掲載した。その場合は、解説文及び集計表・グラフに「◎総合比較」「◎設置者別比較」の見出しを付けた。設置者別の解説や集計表・グラフのない場合は、解説文・集計表・グラフともに特に見出しを付けていない。
- ◎記述回答は、原則として記述どおりに転載し、質問と矛盾すると思われる記述回答や、他の選択肢に含まれると思われる記述回答もそのまま記載した。ただし、「なし」のように空白と同じ意味と解釈できる記述はこの集計表に記載していない。

1. 調查結果

質問 1 (1-1)

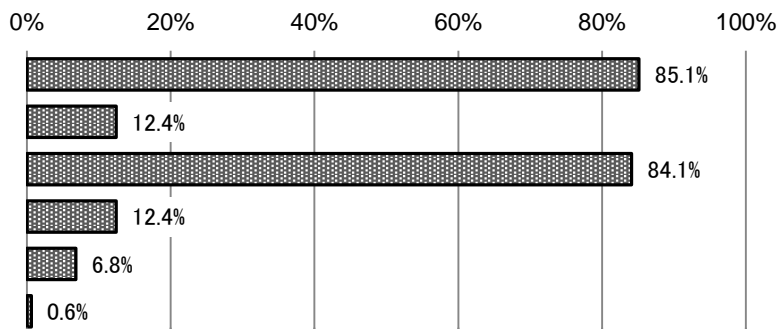
質問 1 「外国語活動及び英語活動のご担当者」について伺います。

1-1 貴校での現在の外国語活動及び英語活動のご担当者を、学年群ごとに全て選んでください。

各学年とも「①HRT（学級担任）」と「③ALT」がほぼ同数で並び、50 ポイント以上の差で「②英語専科教員」「④JTE」「⑤その他」が続いた（「無回答」除く）。この点では昨年度と大きな違いは見られない。

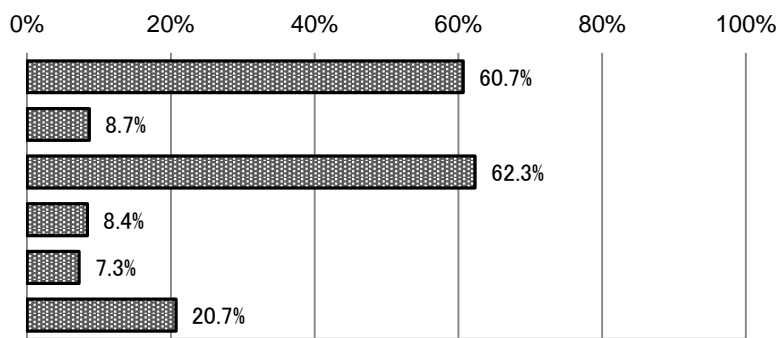
【5・6年生】

選択肢	回答数	N=1,144
① HRT	974	85.1%
② 英語専科教員	142	12.4%
③ ALT	962	84.1%
④ JTE	142	12.4%
⑤ その他	78	6.8%
無回答	7	0.6%



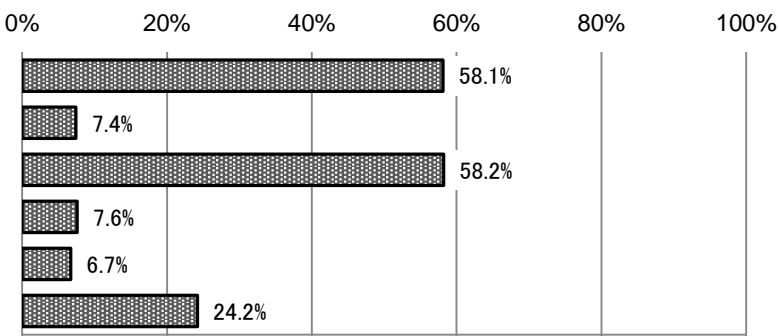
【3・4年生】

選択肢	回答数	N=1,144
① HRT	694	60.7%
② 英語専科教員	99	8.7%
③ ALT	713	62.3%
④ JTE	96	8.4%
⑤ その他	83	7.3%
無回答	237	20.7%



【1・2年生】

選択肢	回答数	N=1,144
① HRT	665	58.1%
② 英語専科教員	85	7.4%
③ ALT	666	58.2%
④ JTE	87	7.6%
⑤ その他	77	6.7%
無回答	277	24.2%

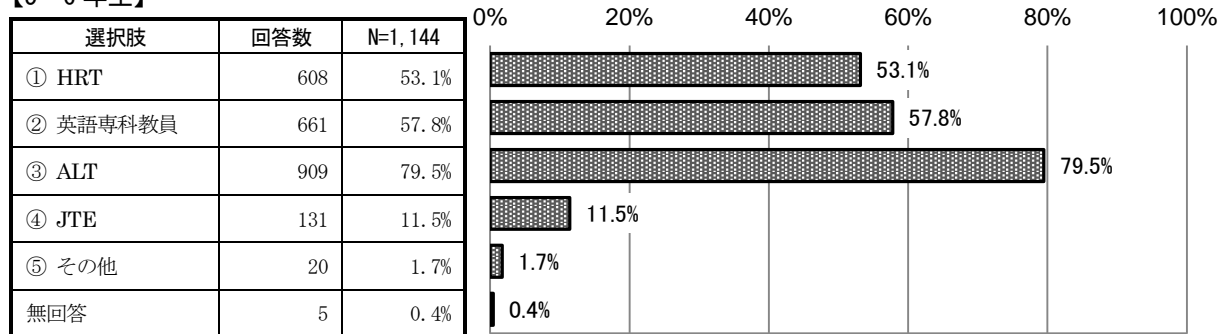


1-2 現時点での実施の有無にかかわらず、今後外国語活動及び英語活動を展開する際に望ましいと思われるご担当者を、学年群ごとに全て選んでください。

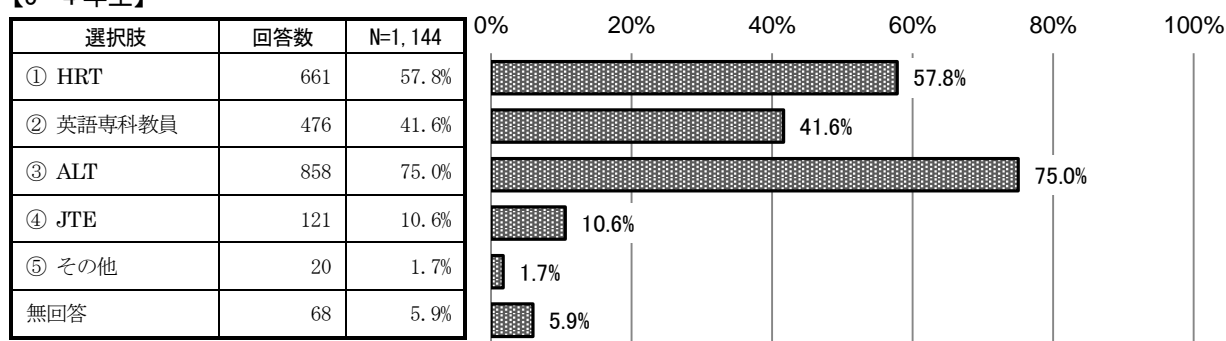
「望ましいと思われる担当者（以下、「望ましい担当者）」でも、全体的にはほぼ昨年度と同様の傾向で、「③ALT」がどの学年でも最多である。ただし、5・6年生のみ「②英語専科教員」が「①HRT」を上回っている。また、「②英語専科教員」を望む声が高学年ほど大きい点は昨年度同様である。

なお、ほとんどの選択肢で各学年群のパーセンテージが減少する中、「②英語専科教員」だけが各学年群とも 5 ポイント前後とわずかに増加している。

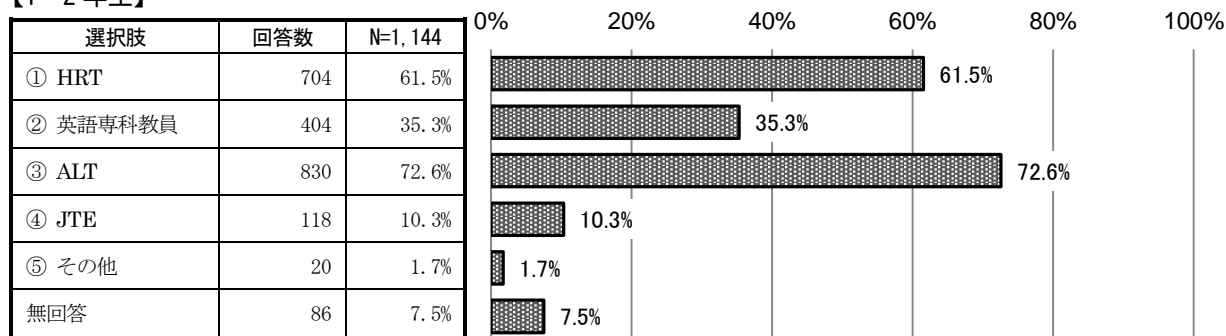
【5・6年生】



【3・4年生】



【1・2年生】



質問1 (1-1 と 1-2 の比較)

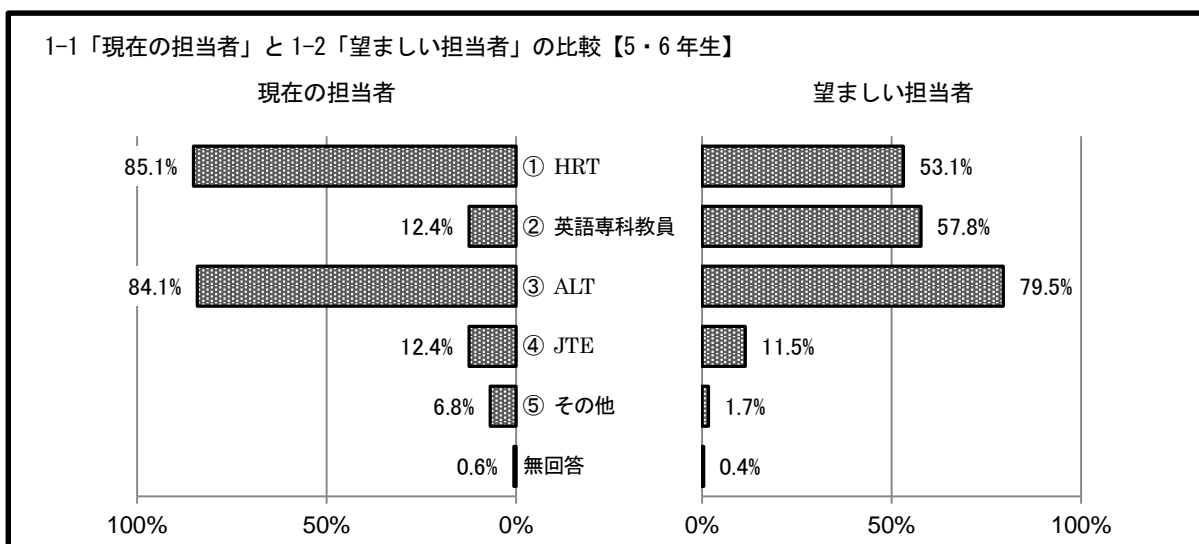
1-1 「現在の担当者」と 1-2 「望ましい担当者」の比較～総合比較～

「望ましい担当者」が「現在の担当者」を大きく上回るものとして、昨年度同様「②英語専科教員」があげられる。全学年で「望ましい」が「現在」を大きく上回るが、高学年ほど「②英語専科教員」を「望ましい担当者」とする意見が多い。

「現在の担当者」は全体的に「①HRT」と「③ALT」の割合が多いが、5・6年生では「①HRT」を「望ましい担当者」とする率が「現在の担当者」を32.0ポイント下回っている。「③ALT」は、3・4年生で12.7ポイント、1・2年生で14.4ポイント、それぞれ「望ましい担当者」が「現在の担当者」を上回る。これらは昨年度と共通する傾向である。

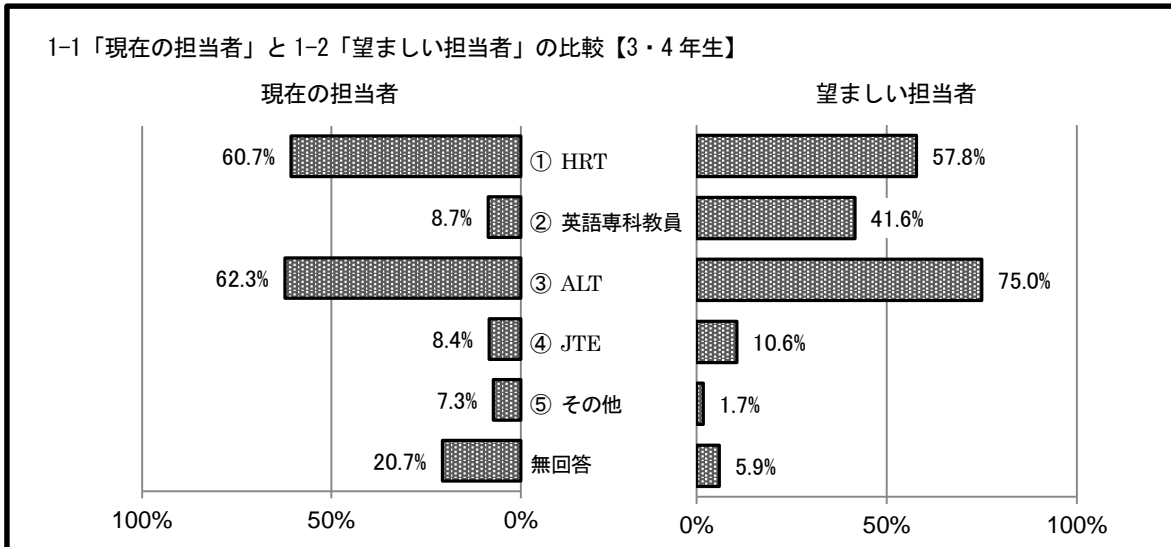
【5・6年生】

選択肢	現在の担当者	望ましい担当者
① HRT	85.1%	53.1%
② 英語専科教員	12.4%	57.8%
③ ALT	84.1%	79.5%
④ JTE	12.4%	11.5%
⑤ その他	6.8%	1.7%
無回答	0.6%	0.4%



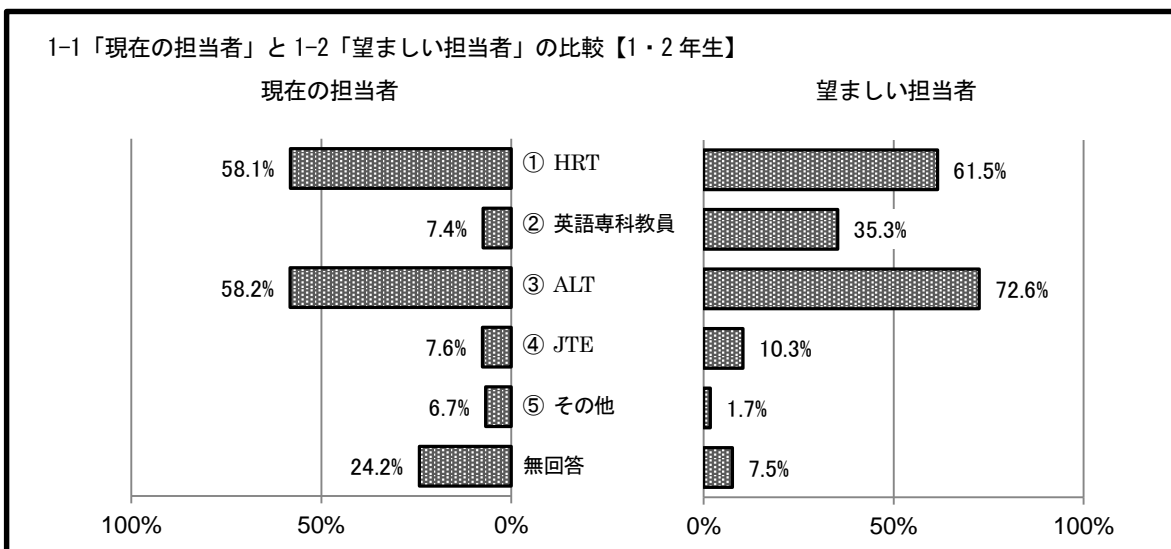
【3・4年生】

選択肢	現在の担当者	望ましい担当者
① HRT	60.7%	57.8%
② 英語専科教員	8.7%	41.6%
③ ALT	62.3%	75.0%
④ JTE	8.4%	10.6%
⑤ その他	7.3%	1.7%
無回答	20.7%	5.9%



【1・2年生】

選択肢	現在の担当者	望ましい担当者
① HRT	58.1%	61.5%
② 英語専科教員	7.4%	35.3%
③ ALT	58.2%	72.6%
④ JTE	7.6%	10.3%
⑤ その他	6.7%	1.7%
無回答	24.2%	7.5%



1-1 「現在の担当者」と、1-2 「望ましい担当者」の比較～設置者別比較～

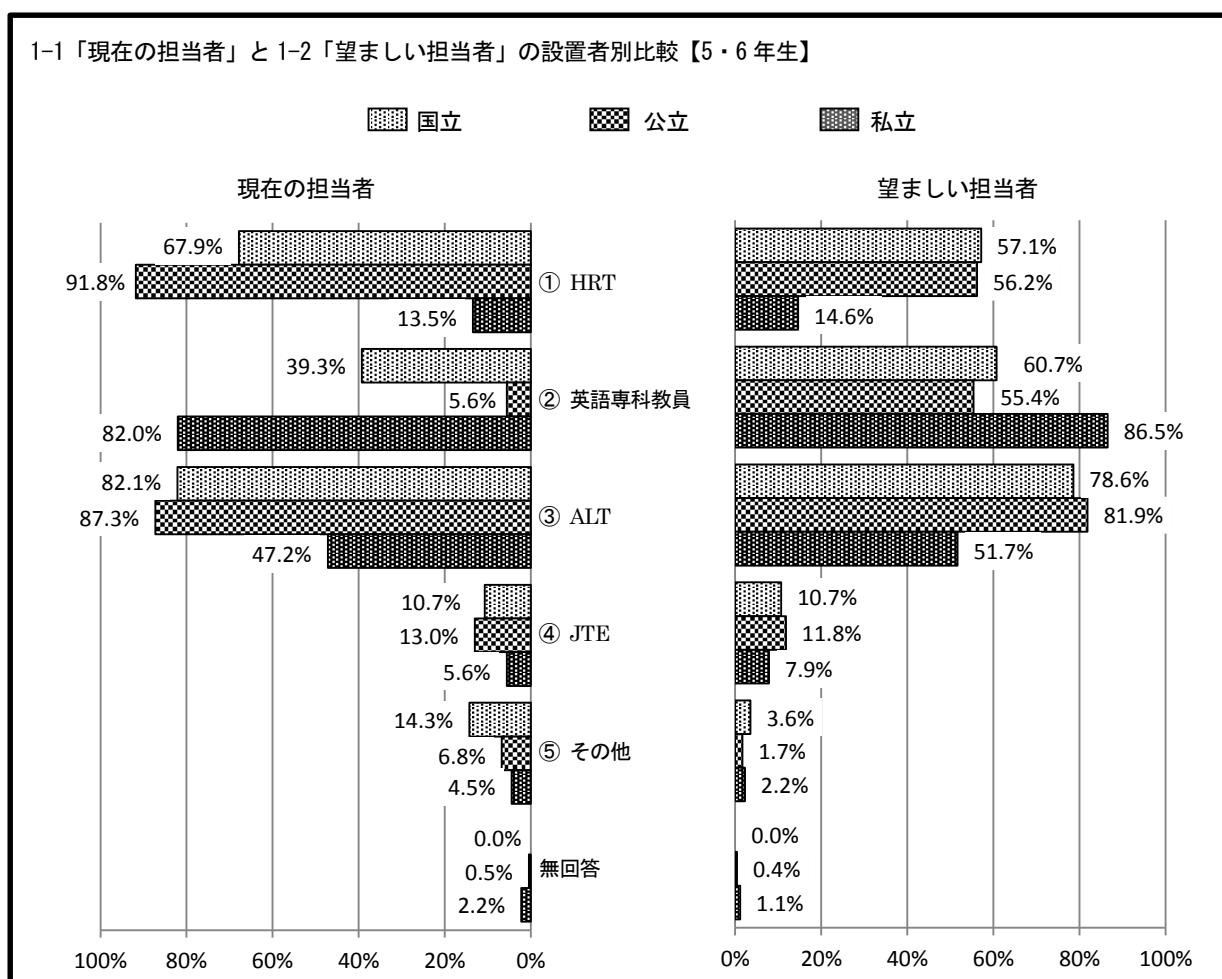
まず総合比較で「望ましい担当者」が「現在の担当者」を大きく上回った「②英語専科教員」について、設置者別に見てみよう。公立5・6年生の49.8ポイント差を最大に、公立3・4年生で36.3ポイント、公立1・2年生で30.1ポイント、「望ましい担当者」が「現在の担当者」を上回った。国立では5・6年生と1・2年生の「②英語専科教員」で「望ましい担当者」が「現在の担当者」を20ポイント前後上回る。

一方で、国・公立の5・6年生で、「①HRT」において「望ましい担当者」が「現在の担当者」を下回った。公立で35.6ポイント、国立でも10.8ポイント下回り、国・公立の5・6年生において担任教員ではなく英語専科教員を外国語活動の担当者になりたいという希望がうかがえる。

国立の3・4年生と1・2年生のいずれも、「①HRT」と「③ALT」で、「望ましい担当者」が、「現在の担当者」を20ポイント以上上回ることも目を引く。国・公立のほとんどの学年群で、「②英語専科教員」を「望ましいと担当者」とする者が多い中、国立の3・4年生のみ「②英語専科教員」で、「望ましい担当者」と「現在の担当者」の差がほとんどなかった。私立では、3・4年生と1・2年生の「②英語専科教員」で、「望ましい担当者」が「現在の担当者」を7ポイント前後上回った以外は、「現在の担当者」と「望ましい担当者」の差は見られない。

【5・6年生】(N: 国立=32、公立=1,020、私立=89)

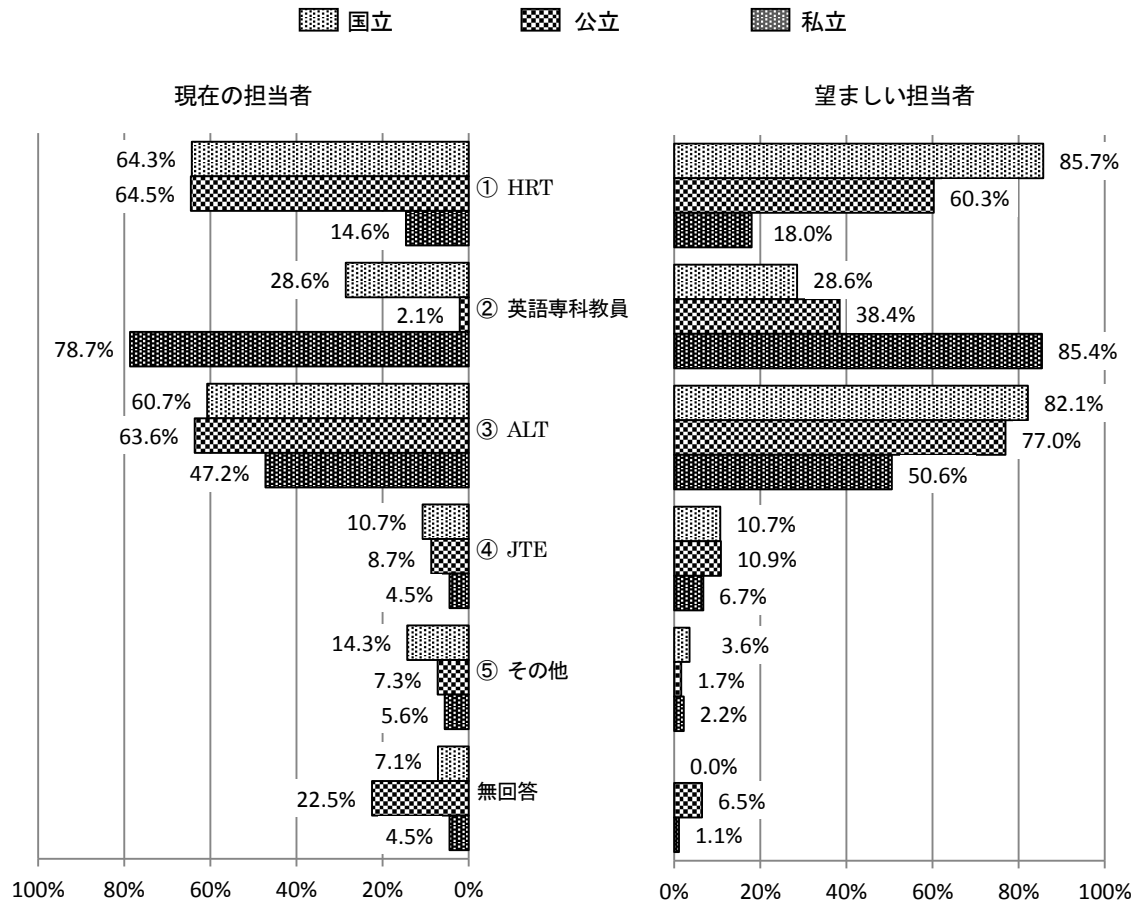
選択肢	現在の担当者			望ましい担当者		
	国立	公立	私立	国立	公立	私立
① HRT	67.9%	91.8%	13.5%	57.1%	56.2%	14.6%
② 英語専科教員	39.3%	5.6%	82.0%	60.7%	55.4%	86.5%
③ ALT	82.1%	87.3%	47.2%	78.6%	81.9%	51.7%
④ JTE	10.7%	13.0%	5.6%	10.7%	11.8%	7.9%
⑤ その他	14.3%	6.8%	4.5%	3.6%	1.7%	2.2%
無回答	0.0%	0.5%	2.2%	0.0%	0.4%	1.1%



【3・4年生】(N: 国立=32、公立=1,020、私立=89)

選択肢	現在の担当者			望ましい担当者		
	国立	公立	私立	国立	公立	私立
① HRT	64.3%	64.5%	14.6%	85.7%	60.3%	18.0%
② 英語専科教員	28.6%	2.1%	78.7%	28.6%	38.4%	85.4%
③ ALT	60.7%	63.6%	47.2%	82.1%	77.0%	50.6%
④ JTE	10.7%	8.7%	4.5%	10.7%	10.9%	6.7%
⑤ その他	14.3%	7.3%	5.6%	3.6%	1.7%	2.2%
無回答	7.1%	22.5%	4.5%	0.0%	6.5%	1.1%

1-1「現在の担当者」と1-2「望ましい担当者」の設置者別比較【3・4年生】

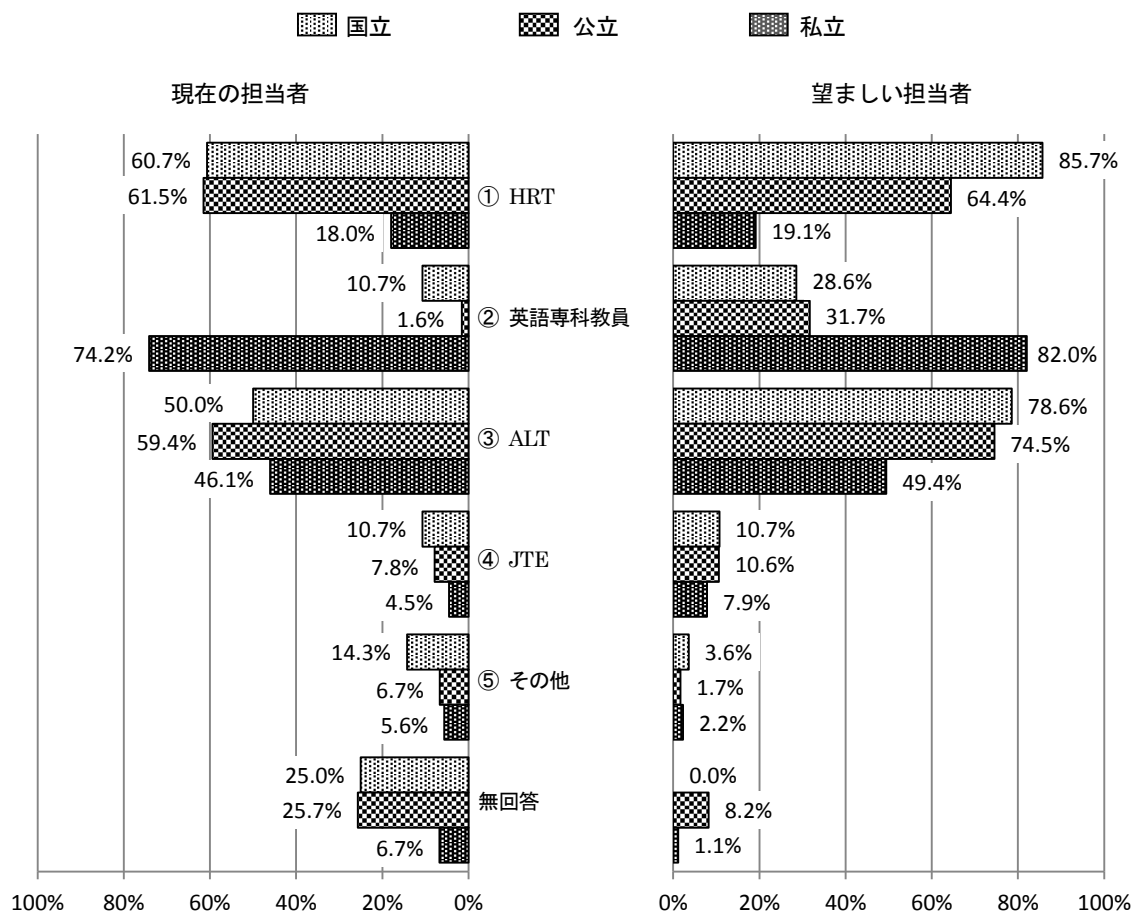


質問 1 (1-1 と 1-2 の比較)

【1・2年生】(N: 国立=32、公立=1,020、私立=89)

選択肢	現在の担当者			望ましい担当者		
	国立	公立	私立	国立	公立	私立
① HRT	60.7%	61.5%	18.0%	85.7%	64.4%	19.1%
② 英語専科教員	10.7%	1.6%	74.2%	28.6%	31.7%	82.0%
③ ALT	50.0%	59.4%	46.1%	78.6%	74.5%	49.4%
④ JTE	10.7%	7.8%	4.5%	10.7%	10.6%	7.9%
⑤ その他	14.3%	6.7%	5.6%	3.6%	1.7%	2.2%
無回答	25.0%	25.7%	6.7%	0.0%	8.2%	1.1%

1-1 「現在の担当者」と 1-2 「望ましい担当者」の設置者別比較【1・2年生】



質問 2 1・2年生の英語活動について伺います。

2-1 貴校の1・2年生の英語活動についてのお考えを1つ選んでください。

◎総合比較

英語活動を「必要だとする回答」(「①5・6年生同様に必要」+「②時間数が少なくても必要」+「③どちらかといえば必要」)が75.7%(昨年度72.5%)と全体の4分の3を占め、「必要ないとする回答」(「⑤どちらかといえば必要ない」+「⑥必要ない」)の12.5%(昨年度11.4%)と大きな差がある。

回答ごとのパーセンテージの差は昨年度と同様である。

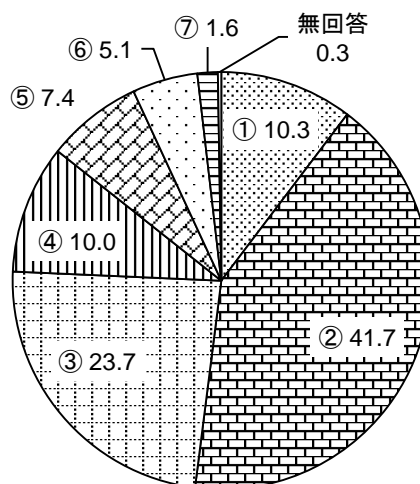
◎設置者別比較

「①5・6年生同様に必要」で国・公・私立で大きな差が生じている。私立では68.5%と半数以上を占めている一方で、公立では5.1%、国立では14.3%と少数派である。この傾向は昨年度と同様だが、国立において「①5・6年生同様に必要」が25.0%から14.3%へ10.7ポイント減少し、「②時間数が少なくても必要」が28.1%から64.3%へと36.2ポイント増え、昨年度と異なった結果となっている。「必要だとする回答」(「①5・6年生同様に必要」+「②時間数が少なくても必要」+「③どちらかといえば必要」)が、国立において71.9%から89.3%へ17.4ポイント増となり、昨年度とあまり変化のない公・私立と大きな違いを見せた。ただし、N(母数)が28と少数であるため、他に比べわずかな変化が大きな変動値として表れることには留意したい。

英語活動を「必要ないとする回答」(「⑤どちらかといえば必要ない」+「⑥必要ない」)は、国・公・私立ともに昨年度同様の傾向で、大きな変化はない。

◎総合比較

選択肢	回答数	N=1,144
① 5・6年生同様に必要	118	10.3%
② 時間数が少なくても必要	477	41.7%
③ どちらかといえば必要	271	23.7%
④ あってもなくても構わない	114	10.0%
⑤ どちらかといえば必要ない	85	7.4%
⑥ 必要ない	58	5.1%
⑦ わからない	18	1.6%
無回答	3	0.3%



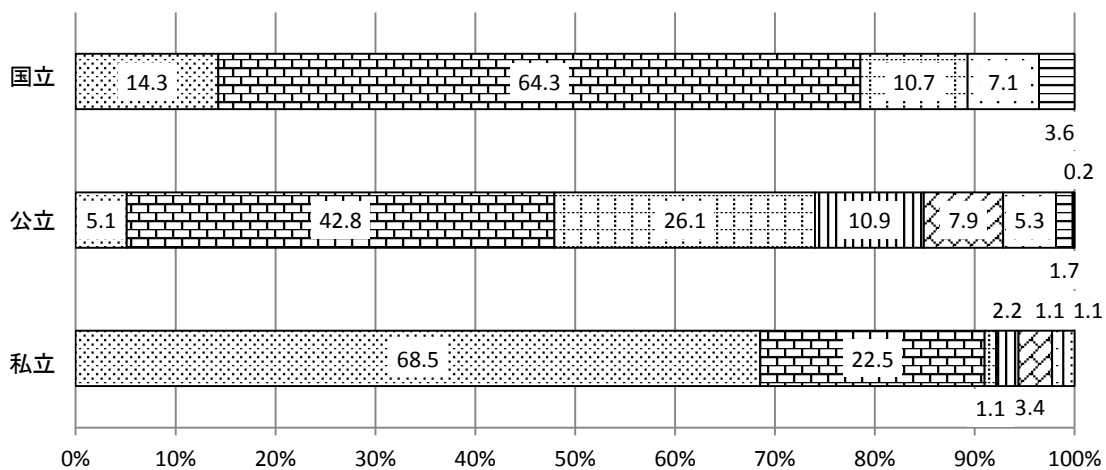
質問 2 (2-1)

◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=28	回答数	N=1,020	回答数	N=89
① 5・6年生同様に必要	4	14.3%	52	5.1%	61	68.5%
② 時間数が少なくても必要	18	64.3%	437	42.8%	20	22.5%
③ どちらかといえば必要	3	10.7%	266	26.1%	1	1.1%
④ あってもなくても構わない	0	0.0%	111	10.9%	2	2.2%
⑤ どちらかといえば必要ない	0	0.0%	81	7.9%	3	3.4%
⑥ 必要ない	2	7.1%	54	5.3%	1	1.1%
⑦ わからない	1	3.6%	17	1.7%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	0.2%	1	1.1%

2-1 貴校の1・2年生の英語活動についてのお考えを1つ選んでください。

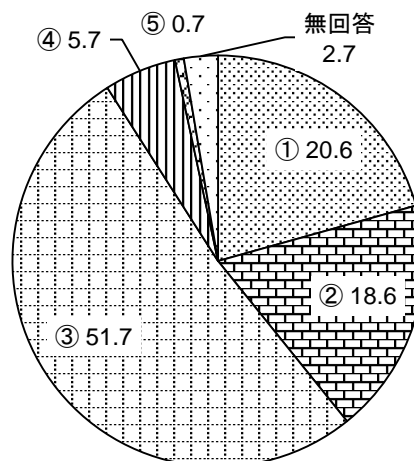
- ① 5・6年生同様に必要
- ② 時間数が少なくても必要
- ③ どちらかといえば必要
- ④ あってもなくても構わない
- ⑤ どちらかといえば必要ない
- ⑥ 必要ない
- ⑦ わからない
- 無回答



2-2 2-1 で、「1.5・6年生同様に必要」「2.時間数が少なくても必要」「3.どちらかといえば必要」を選ばれた方だけに伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

全体的な傾向に昨年度と大きな違いはない。

選択肢	回答数	N=862
① コミュニケーション能力の育成につながる	178	20.6%
② 異文化への理解を深めることができる	160	18.6%
③ 早い段階から英語に触れさせた方が効果的である	446	51.7%
④ 5・6年生の外国語活動の準備として必要である	49	5.7%
⑤ その他	6	0.7%
無回答	23	2.7%



◎ 「⑤その他」の記述回答 (*:「⑤その他」を選択した以外の記入回答)

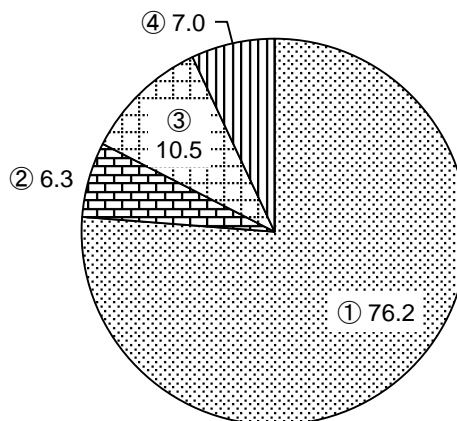
外国語を特別なものとして捉えない学年の児童だからこそ必要だと思うため
音に慣れることができる
発音を真似るのが、上手だから
音声のみで授業がしやすい。そのころから「まず聞く」という姿勢を作っておきたい
早くから英語に触れさせることも大事だが、国語（日本語）も大事なので
*外国に対する興味関心を育てる
小学校に入学したらあたりまえに「英語」がある環境を作り、抵抗なく取り組めるようにすると良いと思うから
*塾などで習っている子も複数名おり、今後5・6年で差が大きく開くと思われる。保護者等、必要と感じている人は多い
発達段階の関係から、くり返し聞くこと、話すことにあまり抵抗がなく、多くのインプットができると考える

質問 2 (2-3)

2-3 2-1 で、「5. どちらかといえば必要ない」「6. 必要ない」を選ばれた方のみ伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

「①他教科を優先したい（している）」が76.2%で、昨年度同様圧倒的に多い。次いで「③指導計画や教材等が整っていない」が、昨年度の17.1%から10.5%に減少し、この面での改善がうかがえる。「④その他」の中で記述回答の9例のうち4例が「日本語（国語）を優先させたい」という意見だった。

選択肢	回答数	N=143
① 他教科を優先したい（している）	109	76.2%
② 教員の確保が難しい	9	6.3%
③ 指導計画や教材等が整っていない	15	10.5%
④ その他	10	7.0%
無回答	0	0.0%



◎ 「④その他」の記述回答

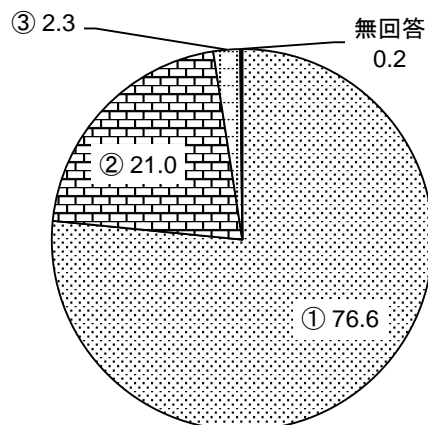
日本語をしっかりと教えたい
日本語の学習を優先すべき
導入の意図が不明確
外国の文化にふれてたのしめること。大切
日本語の習得が先だと思う
まず、国語を充実させたい
学活等でコミュニケーション能力の素地の育成が期待できる
ねうちがない

質問3 外国語活動及び英語活動に関する「教員研修・自己学習」について伺います。

3-1 平成27年度の4～12月までに貴校の先生方は外国語活動及び英語活動に関する研修会や研究発表会に参加（実施）されましたか。または、同年度の3月までに参加（実施）予定はありますか。該当する項目を1つ選んでください。

教員の研修会や研究発表会の参加状況をみると、「①参加（実施）している（予定がある）」が76.6%で、昨年度同様最多。それに次いで「②参加（実施）していない（予定はない）」が21.0%で、順位は昨年度と変化がない。パーセンテージに若干の変化は見られるものの、その差は5ポイント前後であり大きな変動とは言えない。

選択肢	回答数	N=1,144
① 参加（実施）している（予定がある）	876	76.6%
② 参加（実施）していない（予定はない）	240	21.0%
③ わからない	26	2.3%
無回答	2	0.2%

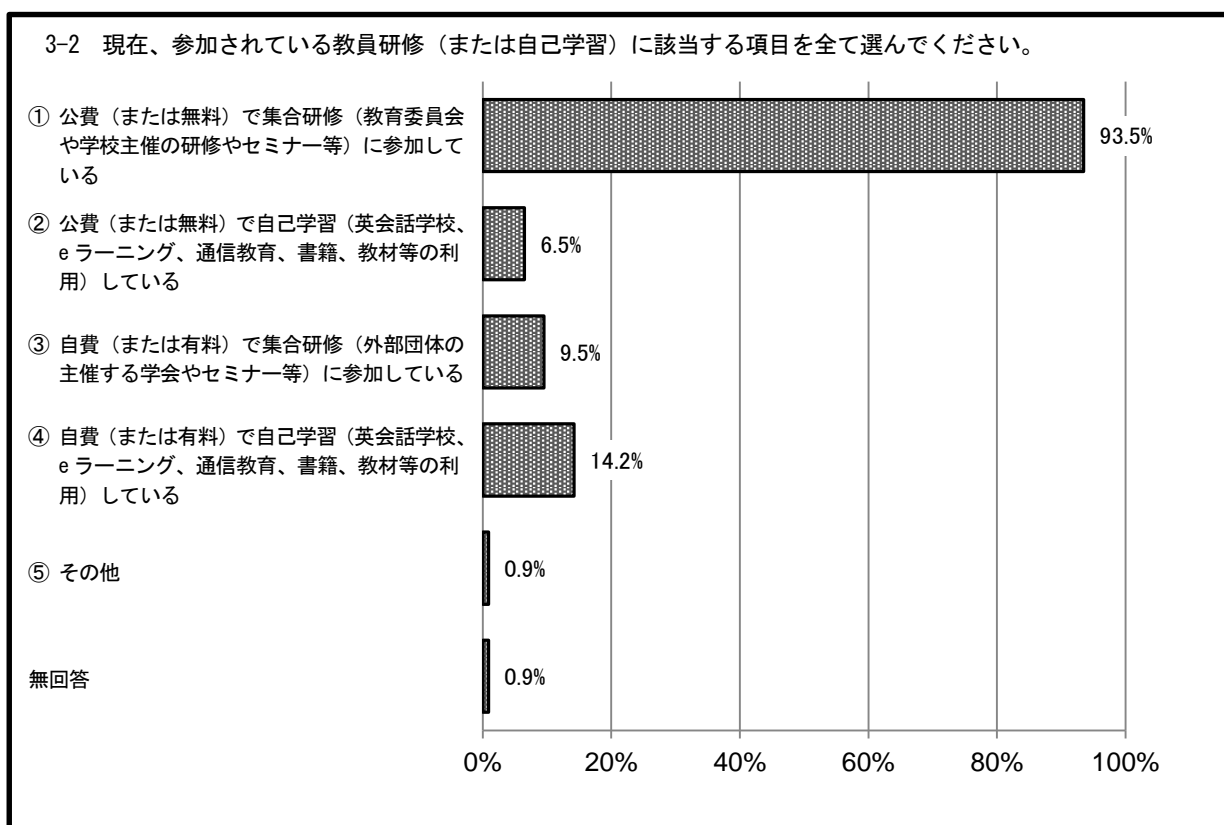


質問 3 (3-2)

3-2 現在、参加されている教員研修（または自己学習）に該当する項目を全て選んでください。

参加している研修（または自己学習）をみると、「①公費（または無料）で集合研修（教育委員会や学校主催の研修やセミナー等）に参加している」が93.5%で最多。次いで79.3ポイントの大きな差で「④自費（または有料）で自己学習（英会話学校、eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している」が14.2%となっている。以下、「③自費（または有料）で集合研修（外部団体の主催する学会やセミナー等）に参加している」「②公費（または無料）で自己学習（英会話学校、eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している」と続くが、順位やパーセンテージは昨年度とほとんど変わらない。

選択肢	回答数	N=876
① 公費（または無料）で集合研修（教育委員会や学校主催の研修やセミナー等）に参加している	819	93.5%
② 公費（または無料）で自己学習（英会話学校、eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している	57	6.5%
③ 自費（または有料）で集合研修（外部団体の主催する学会やセミナー等）に参加している	83	9.5%
④ 自費（または有料）で自己学習（英会話学校、eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用）している	124	14.2%
⑤ その他	8	0.9%
無回答	8	0.9%



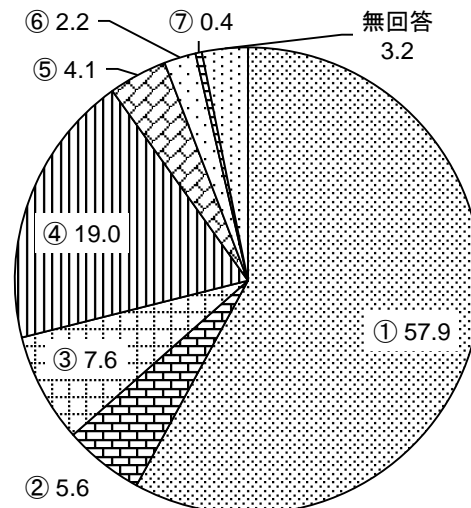
◎ 「⑤その他」の記述回答

外部講師を招へいしての校内研修会
市センター主事による校内職員研修の実施 全校外国語活動 公開により主事に指導受ける
文部科学省 中央研修
市教委開催の研修会
自校に大学教授を招へいして研修を実施
教員免許状更新講習
市内で開催された研修会に参加した（夏季のみ）
各学校の担当者を集めて行われる研修

3-3 最も必要と思われる教員研修の内容を1つ選んでください。

「①指導法」が57.9%で昨年度同様最多。続いて「④教員自身の英語力向上に関する内容」が19.0%、次いで「③ALTやJTE（ボランティア含む）等との連携に関する内容」が7.6%。以下、「②カリキュラム等指導計画」「⑤評価方法」「⑥他校の実施事例」が僅差で並ぶ。若干の順位変動はあるが、全体的には昨年度との大きな差は見られない。

選択肢	回答数	N=1,134
① 指導法	657	57.9%
② カリキュラム等指導計画	63	5.6%
③ ALT や JTE (ボランティア含む) 等との連携に関する内容	86	7.6%
④ 教員自身の英語力向上に関する内容	216	19.0%
⑤ 評価方法	46	4.1%
⑥ 他校の実施事例	25	2.2%
⑦ その他	5	0.4%
無回答	36	3.2%



◎ 「⑤その他」の記述回答

便利な教材の充実
指導法にふさわしい評価方法 評価方法にふさわしい指導法
ねうちの見極め
教員自身の意識改革

質問 4 (4-1)

質問 4 貴校の 5・6 年生の外国語活動における「モジュールの活用」について伺います。

4-1 外国語（英語）の授業にモジュールを利用することについて、最も該当する項目を 1 つ選んでください。

◎総合比較

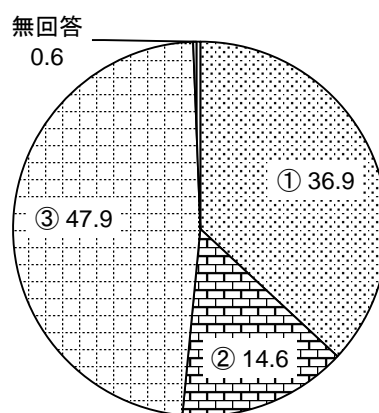
外国語（英語）授業のモジュールの利用に関する質問は今回が初めてである。全体では「③どちらともいえない」が 47.9%で最多、次に 11.0 ポイント差の 36.9%で「①よい（または効果的だ）と思う」が続く。「②よい（または効果的だ）とは思わない」という否定的な意見は 14.6%で、肯定的な意見の半分にも満たない。モジュール利用に肯定的な意見が多いが、まだ迷っている層もかなり多いということがうかがえる。

◎設置者別比較

設置者別に見てみると、私立で「①よい（または効果的だ）と思う」という回答が 55.1%と半数を超え、続く「③どちらともいえない」の 29.2%を 25.9 ポイントも上回り最多である。国立と公立では「③どちらともいえない」がいずれも半数近くを占めて、最多である。一方で「②よい（または効果的だ）とは思わない」は、いずれも少数派で、その比率に設置者による大きな差はない。

◎総合比較

選択肢	回答数	N=1,143
① よい（または効果的だ）と思う	422	36.9%
② よい（または効果的だ）とは思わない	167	14.6%
③ どちらともいえない	547	47.9%
無回答	7	0.6%

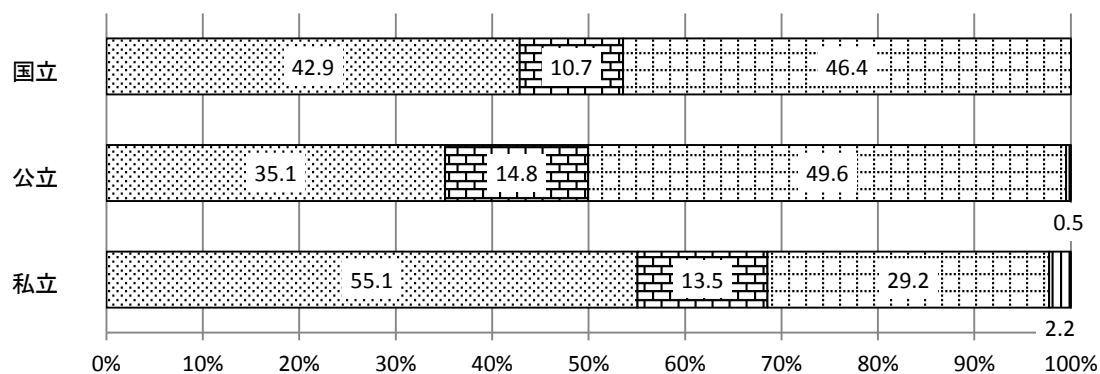


◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=28	回答数	N=1,019	回答数	N=89
① よい（または効果的だ）と思う	12	42.9%	358	35.1%	49	55.1%
② よい（または効果的だ）とは思わない	3	10.7%	151	14.8%	12	13.5%
③ どちらともいえない	13	46.4%	505	49.6%	26	29.2%
無回答	0	0.0%	5	0.5%	2	2.2%

4-1 外国語（英語）の授業にモジュールを利用することについて、最も該当する項目を 1 つ選んでください。

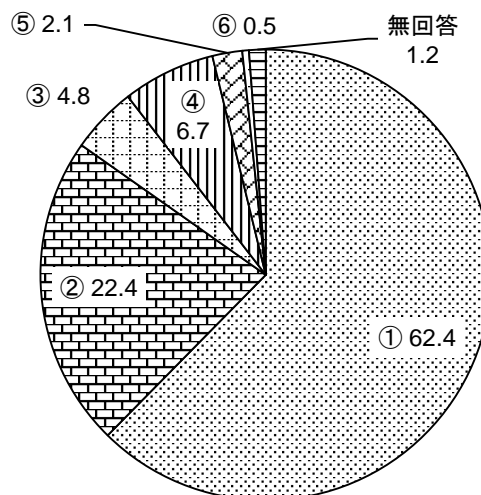
- ① よい（または効果的だ）と思う
- ② よい（または効果的だ）とは思わない
- ③ どちらともいえない
- 無回答



4-2 4-1で「1. よい（または効果的だ）と思う」を選ばれた方のみ伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

モジュールの利用をよいと思う理由については、「①外国語（英語）は短時間でも多く触れた方がよい」が62.4%で最多となり、次ぐ「②外国語（英語）の時間確保が難しい場合、モジュールが活用できる」の22.4%を40.0ポイント上回っている。モジュールの利用による「短時間」授業を、次善の策ではなく積極的にとらえる考えが主流であることが分かる。「短時間」を効果的とする理由には、「⑥その他」の記述回答にあるように、回数の積み重ねによる学習効果と、児童の集中力の限界、という2つの側面があるように思える。

選択肢	回答数	N=420
① 外国語（英語）は短時間でも多く触れた方がよい	262	62.4%
② 外国語（英語）の時間確保が難しい場合、モジュールが活用できる	94	22.4%
③ 外国語（英語）活動に必要な準備等のための教員の負担が少なくなる	20	4.8%
④ 普段の授業を補う内容（復習や実践等）ができる	28	6.7%
⑤ 朝の時間や休み時間等を有効に活用できる	9	2.1%
⑥ その他	2	0.5%
無回答	5	1.2%



◎ 「⑥その他」の記述回答

毎日、少しずつふれるのがよい
集中力のスパン

質問 4 (4-3)

4-3 5・6年生の外国語活動が教科化された場合、貴校においてより望ましいと思われる1週間あたりの時間及び形態を1つ選んでください。

◎総合比較

「①授業1時間(45分)」が53.5%でほぼ半数を占め、「②授業2時間(45分2回)」が20.8%と続き、それ以外は10%以下の少数である。選択肢の③から⑥をモジュール授業として合計すると19.3%となり、「②授業2時間(45分2回)」に並ぶ。モジュール授業で最も多いパターンは「⑤授業1時間と10分間のモジュール4~5回(授業1時間分)」の9.4%である。

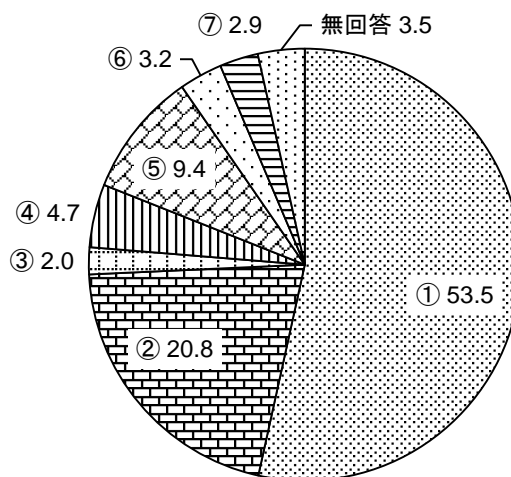
◎設置者別比較

この設問では設置者による違いが大きく出た。すなわち、公立では「①授業1時間(45分)」の58.7%が、続く「②授業2時間(45分2回)」の17.6%を41.1ポイント引き離して最多となった。逆に国立と私立では「②授業2時間(45分2回)」が50%程度で、「①授業1時間(45分)」を40ポイント前後引き離して最多となっている。

選択肢①と②以外でも違いがあり、国立では「⑤授業1時間と10分間のモジュール4~5回(授業1時間分)」の21.4%が「②授業2時間(45分2回)」に続いている。私立は「⑦その他」が21.3%で、国・公立に比べて高いことが目立つが、その記述回答18例を見ると「授業時間を3時間相当以上」(モジュール授業の回数含む)とするものが15例に上る。

◎総合比較

選択肢	回答数	N=1,143
① 授業1時間(45分)	611	53.5%
② 授業2時間(45分2回)	238	20.8%
③ 10分間のモジュール4~5回(授業1時間分)	23	2.0%
④ 15分間のモジュール3回(授業1時間分)	54	4.7%
⑤ 授業1時間と10分間のモジュール4~5回(授業1時間分)	107	9.4%
⑥ 授業1時間(45分)と15分間のモジュール6回(授業2時間分)	37	3.2%
⑦ その他	33	2.9%
無回答	40	3.5%

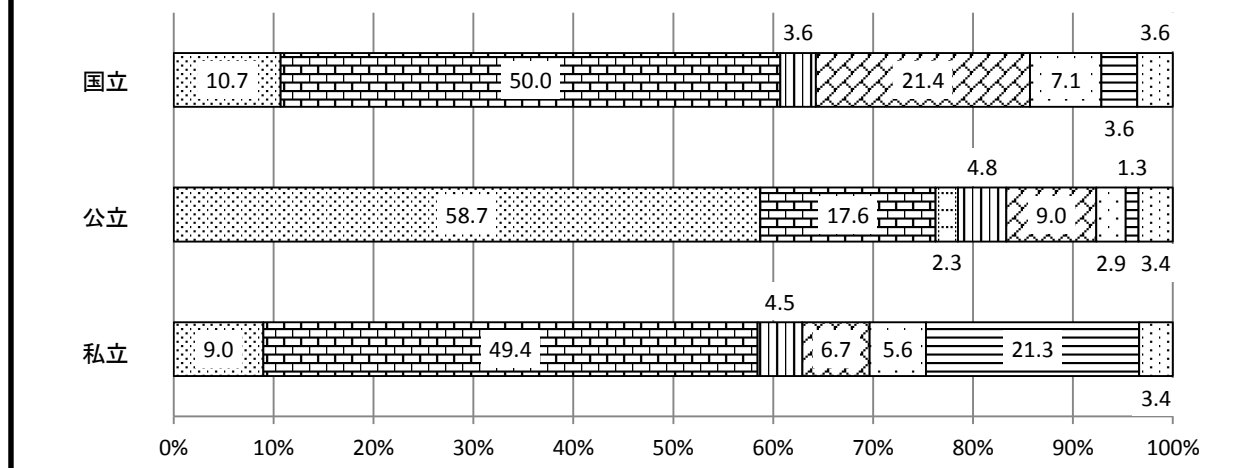


◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=28	回答数	N=1,019	回答数	N=89
① 授業1時間 (45分)	3	10.7%	598	58.7%	8	9.0%
② 授業2時間 (45分2回)	14	50.0%	179	17.6%	44	49.4%
③ 10分間のモジュール4~5回 (授業1時間分)	0	0.0%	23	2.3%	0	0.0%
④ 15分間のモジュール3回 (授業1時間分)	1	3.6%	49	4.8%	4	4.5%
⑤ 授業1時間と10分間のモジュール4~5回 (授業1時間分)	6	21.4%	92	9.0%	6	6.7%
⑥ 授業1時間 (45分) と15分間のモジュール6回 (授業2時間分)	2	7.1%	30	2.9%	5	5.6%
⑦ その他	1	3.6%	13	1.3%	19	21.3%
無回答	1	3.6%	35	3.4%	3	3.4%

4-3 5・6年生の外国語活動が教科化された場合、貴校においてより望ましいと思われる1週間あたりの時間及び形態を1つ選んでください。

- ① 授業1時間 (45分)
- ② 授業2時間 (45分2回)
- ③ 10分間のモジュール4~5回 (授業1時間分)
- ④ 15分間のモジュール3回 (授業1時間分)
- ⑤ 授業1時間と10分間のモジュール4~5回
- ⑥ 授業1時間 (45分) と15分間のモジュール6回
- ⑦ その他
- 無回答



◎「⑤その他」の設置者別記述回答

国立	他の教科とのよみかえ	私立	20分間のモジュール週5回
公立	10分間のモジュール週に2~3回	私立	授業3時間
公立	毎日1時間	私立	授業3時間
公立	1時間 (45分) とモジュール (15分) 3回	私立	授業3時間
公立	モジュール15分×3 1時間授業	私立	授業3時間
公立	授業1h、モジュール10分×3	私立	現在3時間/週
公立	授業1時間と15分のモジュール3回	私立	45分3回
公立	授業1時間と15分間のモジュール2~3回	私立	3時間 (45分×3回)
公立	授業1時間とモジュール3回	私立	授業3時間 (45分3回)
公立	授業1時間と15分間のモジュール3回	私立	授業3時間 (45分3回)
公立	授業3時間	私立	3時間 (45分×3回)
公立	授業3時間	私立	授業×3コマ
公立	授業2時間とモジュール3時間	私立	一週間に3授業時間か2授業+モジュールを3回 (15×3)
私立	すでに教科として扱っている	私立	すでに1~4年で週2.5時間、5、6年で週3時間実施している
私立	検討中	私立	授業2時間 (45分) 2回とモジュール (15分) 3回
私立	授業1時間、モジュール (10分) 3回	私立	授業10時間程度

質問 5 (5-1)

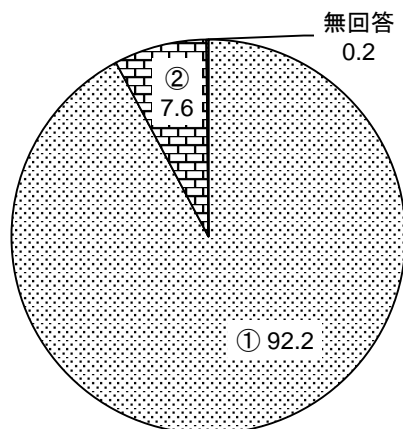
質問 5 貴校の 5・6 年生の外国語活動における「ICT (デジタル) 機器及びその他の機材」の使用について伺います。

注) 昨年度調査の問 4. で「外国語活動及び英語活動で使用している教材」について質問したが、今回は ICT 機器に絞り、その使用状況を調査した。昨年度と今年度の選択肢とでは、ICT 機器に関する選択肢でも、その意味する範囲が異なるので、単純に比較するのは難しい。

5-1 ICT (デジタル) 機器及びその他の機材を使用していますか。該当する項目を 1 つ選んでください。

「①使用している」が 92.2%と圧倒的多数を占めている。もはや ICT 機器の使用は常態化したと言えるだろう。

選択肢	回答数	N=1,144
① 使用している	1,055	92.2%
② 使用していない	87	7.6%
無回答	2	0.2%



5-2 5-1 で「1. 使用している」を選ばれた方のみ伺います。

5-2-1 現在、使用している ICT 機器及びその他の機材を使用者（先生または児童）ごとに全て選んでください。

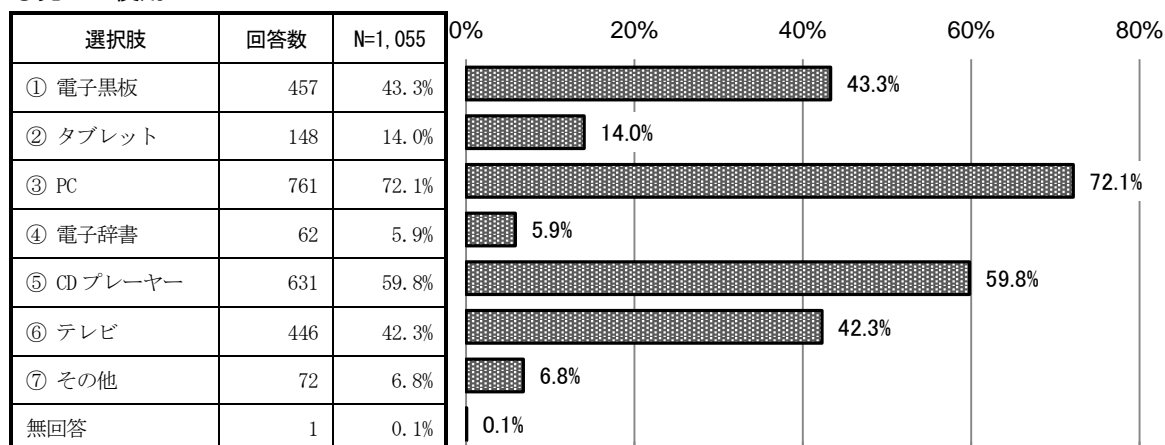
◎先生が使用

「③PC」が 72.1%で最多。以下、12.3 ポイントの差で「⑤CD プレーヤー」59.8%、さらに 17 ポイント前後の差で「①電子黒板」43.3%、「⑥テレビ」42.3%が続く。汎用性の高い PC、音声の再生に特化した CD プレーヤーの人気の高いことがわかる。一方で「②タブレット」は 14.0%、「④電子辞書」は 5.9%と少ない。

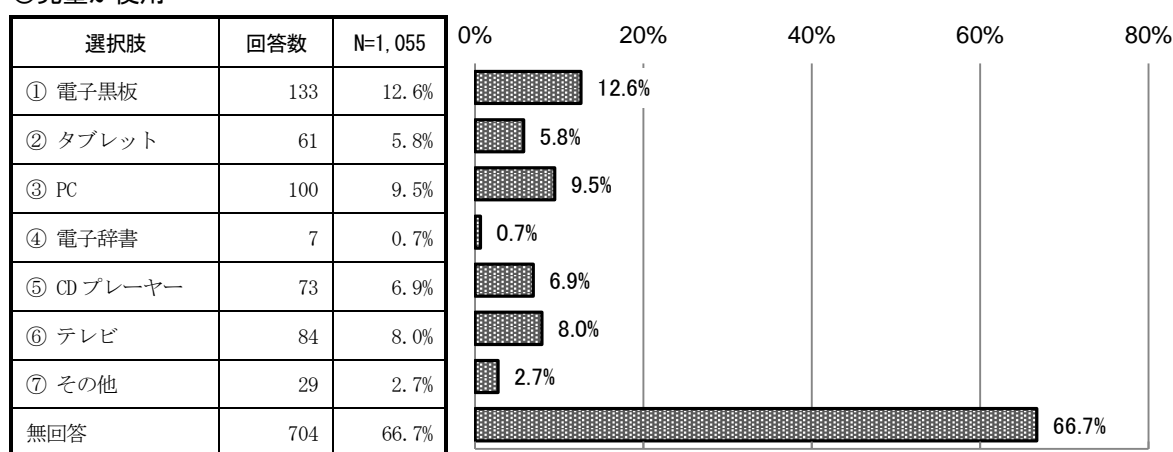
◎児童が使用

この設問では、「無回答」が 66.7%と圧倒的に多い。実際の機器名では、「①電子黒板」の 12.6%以外は、全て 10%以下で、「④電子辞書」はわずか 0.7%である。児童全員が使用できるよう同じ機器をそろえるのは、経済的・制度的に負担が大きいことがうかがえる。

◎先生が使用



◎児童が使用

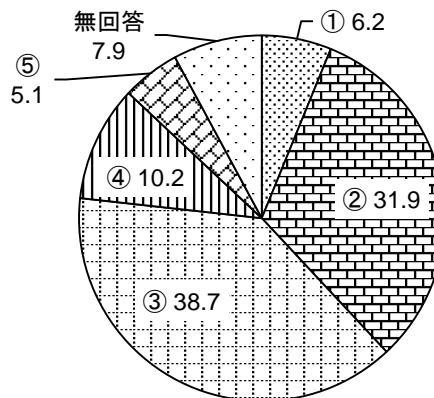


質問 5 (5-2-2 と 5-3)

5-2-2 授業 1 時間 (45 分) あたりの使用時間について、最も該当する項目を 1 つ選んでください。

機器の授業時間 1 時間あたりの使用時間については「③10 分以上～20 分未満」の 38.7%と、「②5 分以上～10 分未満」の 31.9%の 2 つで 7 割を占めている。次いで「④20 分以上～30 分未満」が 10.2%と 1 割を超えているが、「③10 分以上～20 分未満」、「②5 分以上～10 分未満」に比べると 20 ポイント以上の差がある。

選択肢	回答数	N=1,054
① 5 分未満	65	6.2%
② 5 分以上～10 分未満	336	31.9%
③ 10 分以上～20 分未満	408	38.7%
④ 20 分以上～30 分未満	108	10.2%
⑤ 30 分以上	54	5.1%
無回答	83	7.9%



5-3 将来的に使用してみたいと思われる ICT 機器及びその他の機材を使用者 (先生または児童) ごとに全て選んでください。

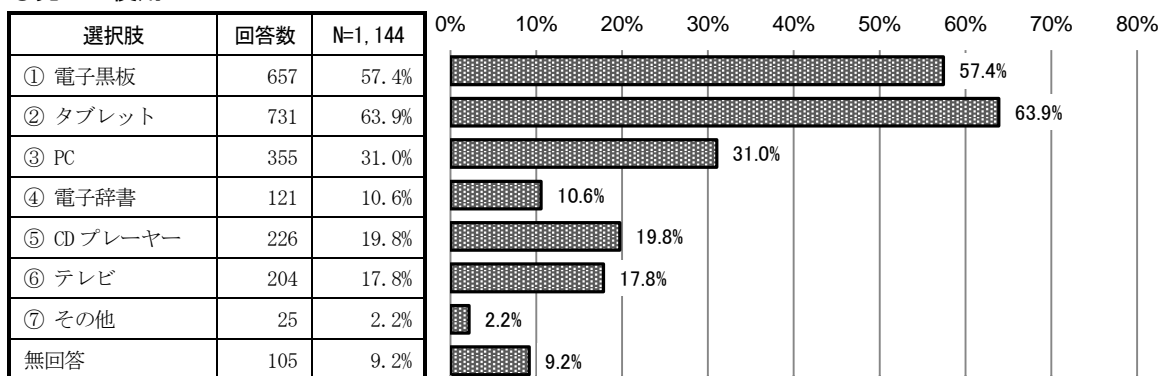
◎先生が使用

「将来的に使用してみたいと思われる ICT 機器及びその他の機材 (以下、将来使用してみたい機器)」について、「②タブレット」が 63.9%で最多。次いで 57.4%で「①電子黒板」、以下 26.4 ポイントの差で「③PC」が続く。

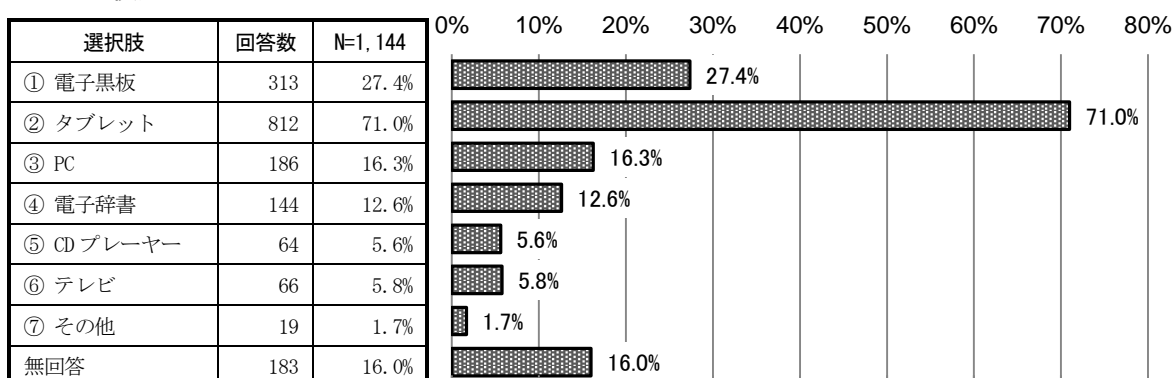
◎児童が使用

「②タブレット」と回答した割合が先生の場合よりも高く、他の ICT 機器を大きく引き離している。

◎先生が使用



◎児童が使用



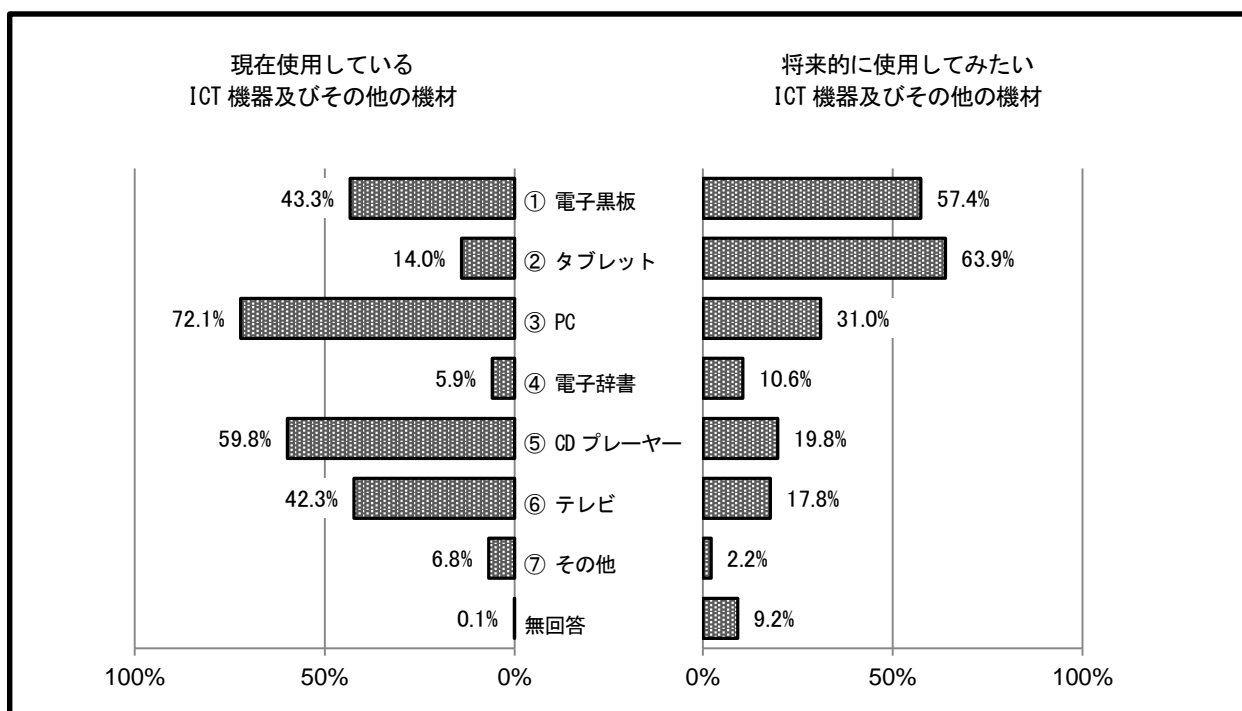
5-2 「現在使用している機器」と、5-3 「将来使用してみたい機器」の比較～総合比較・先生が使用～

◎総合比較／先生が使用

「②タブレット」は、「現在使用している機器」では 14.0%だが、「将来使用してみたい機器」では 63.9%であり、その差は 49.9 ポイントとなる。語学教育ツールとしてのタブレット端末への期待の大きさがうかがわれる。「①電子黒板」も、「将来使用してみたい」が「現在使用している」よりも多いが、その差は 14.1%とタブレットほどの差はない。「⑤CDプレーヤー」「⑥テレビ」はいずれも「将来使用してみたい」が「現在使用している」をかなり下回っている。

◎先生が使用 (N=1,144)

選択肢	現在使用している ICT 機器及びその他の機材	将来的に使用してみたい ICT 機器及びその他の機材
① 電子黒板	43.3%	57.4%
② タブレット	14.0%	63.9%
③ PC	72.1%	31.0%
④ 電子辞書	5.9%	10.6%
⑤ CDプレーヤー	59.8%	19.8%
⑥ テレビ	42.3%	17.8%
⑦ その他	6.8%	2.2%
無回答	0.1%	9.2%



5-2 「現在使用している機器」と、5-3 「将来使用してみたい機器」の比較～総合比較・児童が使用～

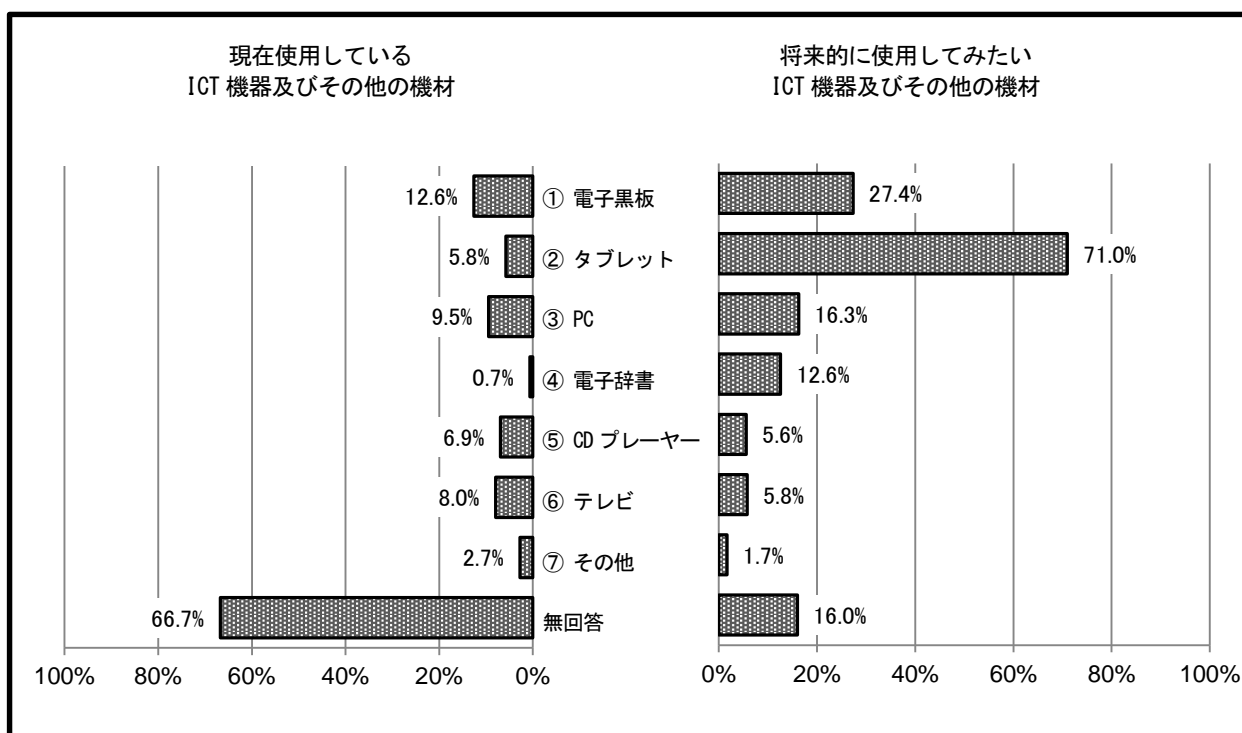
◎総合比較／児童が使用

先生の場合と同様、児童の場合も「②タブレット」で、「将来使用してみたい」が「現在使用している」を大きく上回る。現在の使用例が少ないということもあるだろうが、その差は65.2ポイントとなっている。「②タブレット」以外の実際の機器名で、「将来使用してみたい」が「現在使用している」を上回るものは、「①電子黒板」「③PC」「④電子辞書」だが、このうち「将来使用してみたい」が30%を超えるものはない。

児童の場合も、語学教育ツールとしてのタブレット端末への大きな期待がうかがわれる。

◎児童が使用 (N=1,144)

選択肢	現在使用している ICT 機器及びその他の機材	将来的に使用してみたい ICT 機器及びその他の機材
① 電子黒板	12.6%	27.4%
② タブレット	5.8%	71.0%
③ PC	9.5%	16.3%
④ 電子辞書	0.7%	12.6%
⑤ CD プレーヤー	6.9%	5.6%
⑥ テレビ	8.0%	5.8%
⑦ その他	2.7%	1.7%
無回答	66.7%	16.0%



5-2「現在使用している機器」と、5-3「将来使用してみたい機器」の比較～設置者別比較・児童が使用～

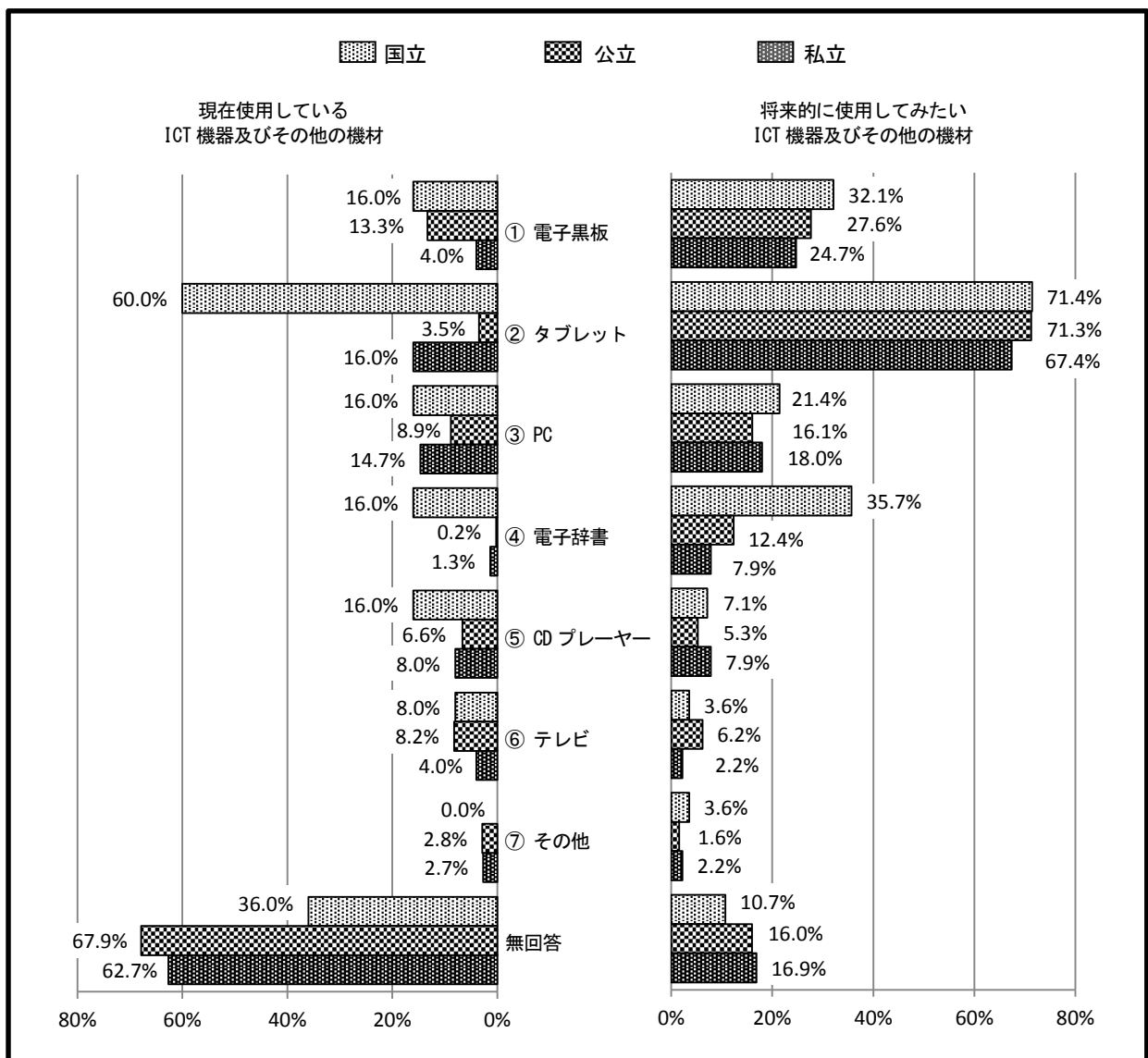
◎設置者別比較／児童が使用

「現在使用している」機器では、国立で「②タブレット」が60.0%という大きな割合を示している。

「将来使用してみたい」では、国・公・私立全てで「②タブレット」が7割前後を占めている。「無回答」層も少なく、タブレットを中心とするICT機器への期待が大きいことがうかがえる。

◎児童が使用 (N=1,144)

選択肢	現在使用している ICT機器及びその他の機材			将来的に使用してみたい ICT機器及びその他の機材		
	国立	公立	私立	国立	公立	私立
① 電子黒板	16.0%	13.3%	4.0%	32.1%	27.6%	24.7%
② タブレット	60.0%	3.5%	16.0%	71.4%	71.3%	67.4%
③ PC	16.0%	8.9%	14.7%	21.4%	16.1%	18.0%
④ 電子辞書	16.0%	0.2%	1.3%	35.7%	12.4%	7.9%
⑤ CDプレーヤー	16.0%	6.6%	8.0%	7.1%	5.3%	7.9%
⑥ テレビ	8.0%	8.2%	4.0%	3.6%	6.2%	2.2%
⑦ その他	0.0%	2.8%	2.7%	3.6%	1.6%	2.2%
無回答	36.0%	67.9%	62.7%	10.7%	16.0%	16.9%



質問 6 (6-1)

質問 6 「5・6年生で読み書きを含めた指導を行う」ことについて伺います。

6-1 5・6年生で読み書きを含めた指導を行うことについて、最も該当する項目を1つ選んでください。

◎総合比較

「②どちらかといえば賛成である」が49.0%とほぼ半分を占め最多である。次いで「③どちらかといえば反対である」と「①賛成である」が20%台前半で続き、「④反対である」は5.2%と少数派である。「5・6年生における読み書きを含めた指導」について選択肢①・②を賛成派、③・④を反対派とすると、70.7%：29.3%で賛成派が多数となる。

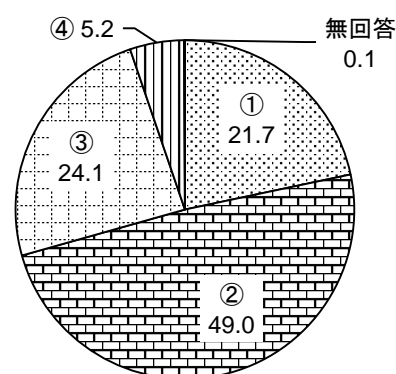
昨年度との比較については、選択肢の区分を、「①賛成」「②反対」「③どちらともいえない」の3区分から、今回の4区分に変更したため単純には比較できない。

◎設置者別比較

私立では「①賛成である」と「②どちらかといえば賛成である」と回答した割合の合計が96.6%にも達する。また、国立で78.5%、公立で68.2%と多数を占め、私立ほどではないが国・公立でも賛成が多数を占めている。逆に、「③どちらかといえば反対である」と「④反対である」の回答合計は、私立ではほとんどないが、公立では31.9%と3割を超え、国立でも21.5%となっており、国・公立で読み書きを含めた指導に対する一定の反対意見があることがわかる。

◎総合比較

選択肢	回答数	N=1,144
① 賛成である	248	21.7%
② どちらかといえば賛成である	560	49.0%
③ どちらかといえば反対である	276	24.1%
④ 反対である	59	5.2%
無回答	1	0.1%

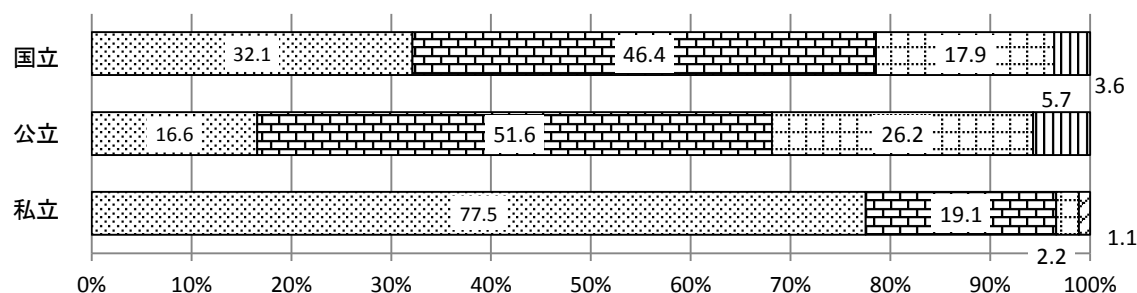


◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=28	回答数	N=1,020	回答数	N=89
① 賛成である	9	32.1%	169	16.6%	69	77.5%
② どちらかといえば賛成である	13	46.4%	526	51.6%	17	19.1%
③ どちらかといえば反対である	5	17.9%	267	26.2%	2	2.2%
④ 反対である	1	3.6%	58	5.7%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%

6-1 5・6年生で読み書きを含めた指導を行うことについて、最も該当する項目を1つ選んでください。

- ① 賛成である
- ② どちらかといえば賛成である
- ③ どちらかといえば反対である
- ④ 反対である
- 無回答



6-2 6-1 で、「1. 賛成である」「2. どちらかといえば賛成である」を選んだ方だけに伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

◎総合比較

「①中学校での学習との連携が取れる」が 27.3%、「③中学入学前に文字への抵抗感が減る」が 23.2%と、それぞれ 20%を超え、「④児童が文字に関心を示している」の 14.1%と「⑧児童の学習内容に合っていれば良い」の 12.7%が続いている。選択肢①と③の割合が高いことから、中学の英語学習への接続を考慮していることがうかがえる。

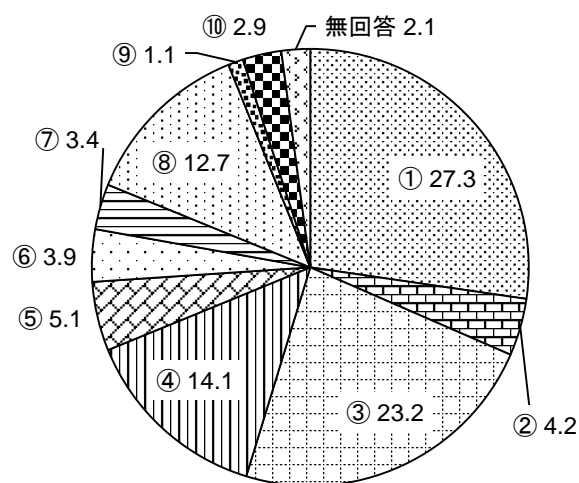
◎設置者別比較

公立に比べ、国立と私立はかなり傾向が異なっている。すなわち、国立では「④児童が文字に関心を示している」が 38.1%で最多であり、公立と私立では 20%以上を占める「①中学校での学習との連携が取れる」が 9.5%と少数である。

また私立では、国・公立では回答の少ない「②文字学習に効果的な学年である」が 18.8%を得ているのが特徴的である。

◎総合比較

選択肢	回答数	N=802
① 中学校での学習との連携が取れる	219	27.3%
② 文字学習に効果的な学年である	34	4.2%
③ 中学入学前に文字への抵抗感が減る	186	23.2%
④ 児童が文字に関心を示している	113	14.1%
⑤ 「読む」 だけなら良い	41	5.1%
⑥ アルファベットであれば良い	31	3.9%
⑦ 簡単な単語 (3 文字単語等) であれば良い	27	3.4%
⑧ 児童の学習内容に合っていれば良い	102	12.7%
⑨ 活動時間が増えるなら行っても良い	9	1.1%
⑩ その他	23	2.9%
無回答	17	2.1%



◎「⑩その他」の記述回答

言語=話す、聞く、書く	文字認識と単語認識がつながりやすい児童と音認識と単語認識がつながりやすい児童がいるから
音声十分に定着してから	
読み書きと話す聞くは連動させるべき	発話の手がかりとなる
社会生活で活用できる	中国の英語授業を見たが小1年生からバンバン授業をやり読みかきできます
ゲーム等活動ばかりでは子どもの意欲がつかない	
文字によって、音が定着しやすい	読み書きしないと身につかない
文法にとらわれすぎないように	ネイティブスピーカー以外の場合、音と文字を合わせた学習が効果的である
アルファベットと音をつなげるとおもしろいし、自然だと思う	
今までに音声をしっかり入れてきた上で文字に行くのであればよい	児童が興味を持ったことについて自分で勉強する可能性が広がる
十分音声が入っているので音と文字を結びつけることができる	社会の要求から、迫られてきている
言語として読み書きだけ教えないということは教育上、成立しない	発音のみでは、忘れた時に覚えておらず思い出せないから、文字を目にすると思い出しやすいから。(特に、What time is it?など長い表現は発音だけでは、覚えられないので。)
本人の関心の度合いに応じて親しませる程度ならよい	
外国の友だちとの文通をする為	
学習が定着しやすい。復習もしやすい	1年生から始めているため

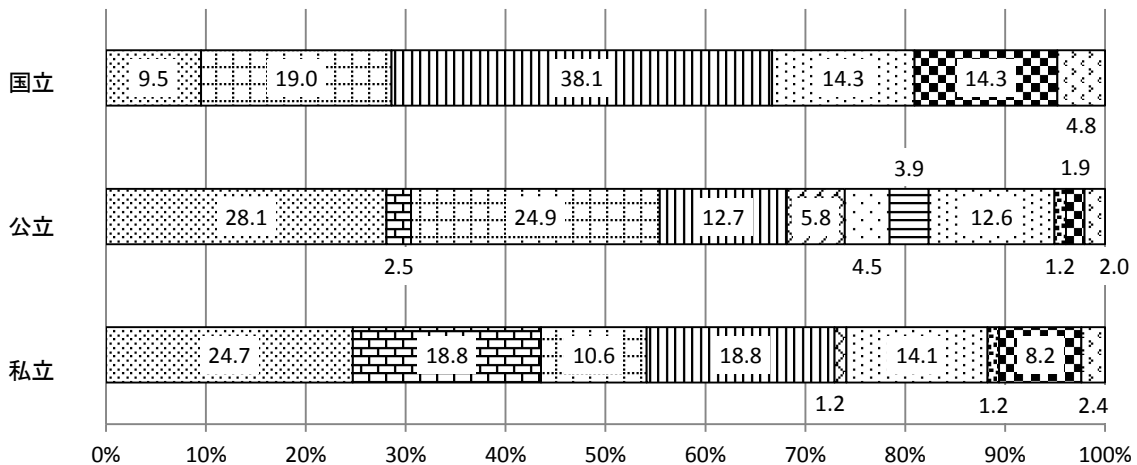
質問 6 (6-2)

◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=21	回答数	N=691	回答数	N=85
① 中学校での学習との連携が取れる	2	9.5%	194	28.1%	21	24.7%
② 文字学習に効果的な学年である	0	0.0%	17	2.5%	16	18.8%
③ 中学入学前に文字への抵抗感が減る	4	19.0%	172	24.9%	9	10.6%
④ 児童が文字に関心を示している	8	38.1%	88	12.7%	16	18.8%
⑤ 「読む」 だけなら良い	0	0.0%	40	5.8%	1	1.2%
⑥ アルファベットであれば良い	0	0.0%	31	4.5%	0	0.0%
⑦ 簡単な単語 (3文字単語等) であれば良い	0	0.0%	27	3.9%	0	0.0%
⑧ 児童の学習内容に合っていれば良い	3	14.3%	87	12.6%	12	14.1%
⑨ 活動時間が増えるなら行っても良い	0	0.0%	8	1.2%	1	1.2%
⑩ その他	3	14.3%	13	1.9%	7	8.2%
無回答	1	4.8%	14	2.0%	2	2.4%

6-2 6-1 で、「1. 賛成である」「2. どちらかといえば賛成である」を選んだ方のみ伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

- ① 中学校での学習との連携が取れる
- ② 文字学習に効果的な学年である
- ③ 中学入学前に文字への抵抗感が減る
- ④ 児童が文字に関心を示している
- ⑤ 「読む」 だけなら良い
- ⑥ アルファベットであれば良い
- ⑦ 簡単な単語 (3文字単語等) であれば良い
- ⑧ 児童の学習内容に合っていれば良い
- ⑨ 活動時間が増えるなら行っても良い
- ⑩ その他
- 無回答

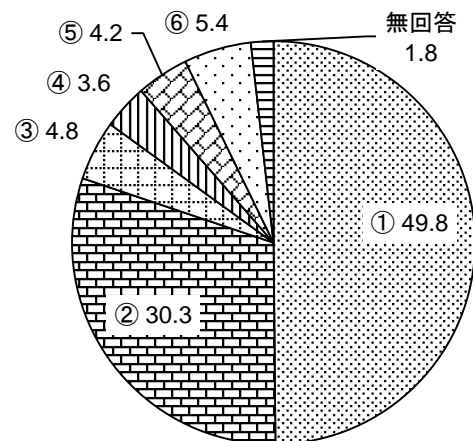


6-3 6-1 で、「3. どちらかといえば反対である」「4. 反対である」を選んだ方だけに伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

「①児童にとって負担や不安がある」が49.8%とほぼ半数を占め、次いで「②別の指導内容（活動）を優先すべき」が30.3%でそれに続く。それ以下はいずれも6%未満の少数である。昨年度の読み書きを含めた指導を行うことに「反対である」という回答者に対する同様の質問結果と、大きく変わるところがなかった。ただ、「⑤専門教員でないと指導できない」は昨年度8.2%から4.2%とほぼ半減している。

設置者別の集計に対するコメントは、国・私立の「どちらかといえば反対」と「反対」という回答が極端に少ないため割愛した。

選択肢	回答数	N=333
① 児童にとって負担や不安がある	166	49.8%
② 別の指導内容（活動）を優先すべき	101	30.3%
③ 指導する余裕が（教員に）ない	16	4.8%
④ 教員の負担が増える	12	3.6%
⑤ 専門教員でないと指導できない	14	4.2%
⑥ その他	18	5.4%
無回答	6	1.8%



◎「⑥その他」の記述回答

中学校から始まることでスタートラインがある程度同じで、国語や算数などが苦手な子も英語はがんばってみようと思うのではないのでしょうか
英語ぎらいが増加する
受験英語に近くなり、楽しく活動できなくなる
まず耳から慣れ親しませるべき
小学校段階ですべきでない
何のための読み・書きなのかにもよる
どうしても読めない子がでてくる ALT 等が増えなければ担任の負担が大きすぎる
中学校の前倒しとなり、英語が楽しくなくなる
音声言語の力が劣ってくる
児童の発達段階に合わない
コミュニケーション力優先から、英語指導で憂慮されていた文法などの指導へ傾注される可能性があるから
ねうちがない
英語嫌いが増える
小学校でよみかきを教えた場合、中学校の指導がどうなるのか
中学校からが良い
英語を楽しいと感じ、興味をもつことが大切だと思うため
中学校の英語教員が、小学校のうちに活動を多く取り入れた授業を主に行ってほしいといていたため、連携をはかるためには、読み書きは必要ないと思う
読み書きの方が指導が簡単で有り学習がドリル的になる。もっと音やコミュニケーションに対する指導を行った方がよい時期だと考える為

質問 7 (7-1)

質問 7 5・6年生の外国語活動における「評価」について伺います。

7-1 現在の外国語活動における児童への評価材料について、該当する項目を全て選んでください。

◎総合比較

「①授業内での観察・記録」が91.7%と他を引き離して最多である。次いで「④ワークシートやノートの記入結果」の51.7%と「⑤児童の自己評価（どこができたか等）」の48.3%が並ぶ。それに続けて、「③発言の内容や回数のチェック」が41.9%、「②児童への意識調査（活動は楽しいか等）」が36.1%で、若干の順位の変動はあるものの、昨年度と大きな違いは見られない。

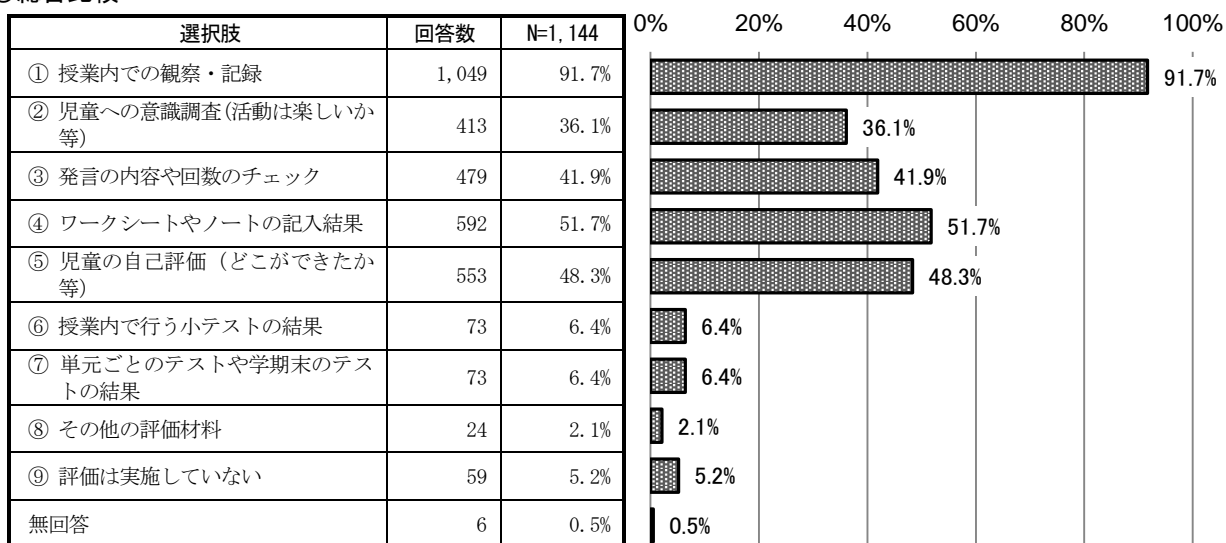
「⑥授業内で行う小テストの結果」と「⑦単元ごとのテストや学期末のテストの結果」は、いずれも6.4%と昨年度同様に少数である。意欲や授業態度などを評価材料とする傾向が強く、テストという形で教育効果を測定することには消極的であることがうかがえる。

「⑧その他の評価材料」の具体的記述例では、「振り返りカード」の活用が4名で最も多く、パフォーマンスやスピーキング、インタビューなどの結果を評価材料とする記述も複数見られた。

◎設置者別比較

「①授業内での観察・記録」が国・公・私立を問わず90%前後で最も高いのは共通だが、それ以外では設置者別に大きな違いが見られる。つまり、私立では「⑥授業内で行う小テストの結果」が47.2%、「⑦単元ごとのテストや学期末のテストの結果」が48.3%といずれも50%近いのに対し、国・公立はいずれも10%にも満たない。それに対して「②児童への意識調査（活動は楽しいか等）」「⑤児童の自己評価（どこができたか等）」と回答した率は、私立は国・公立の半分ないしそれ以下である。評価材料としてテストも重視するという私立に対し、あまり活用していない国・公立という傾向は昨年度調査と同様である。

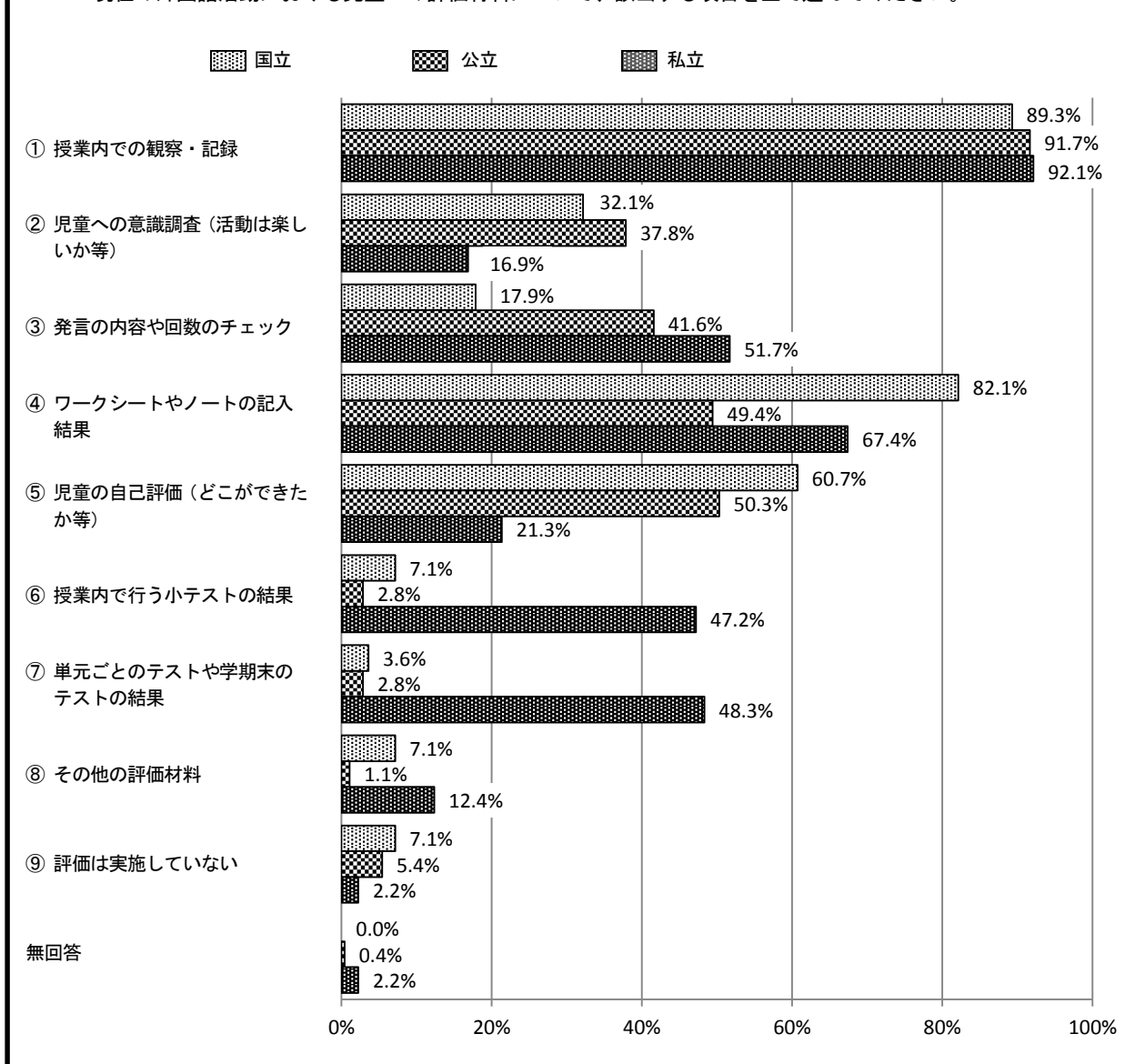
◎総合比較



◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=28	回答数	N=1,020	回答数	N=89
① 授業内での観察・記録	25	89.3%	935	91.7%	82	92.1%
② 児童への意識調査 (活動は楽しいか等)	9	32.1%	386	37.8%	15	16.9%
③ 発言の内容や回数のチェック	5	17.9%	424	41.6%	46	51.7%
④ ワークシートやノートの記入結果	23	82.1%	504	49.4%	60	67.4%
⑤ 児童の自己評価 (どこができたか等)	17	60.7%	513	50.3%	19	21.3%
⑥ 授業内で行う小テストの結果	2	7.1%	29	2.8%	42	47.2%
⑦ 単元ごとのテストや学期末のテストの結果	1	3.6%	29	2.8%	43	48.3%
⑧ その他の評価材料	2	7.1%	11	1.1%	11	12.4%
⑨ 評価は実施していない	2	7.1%	55	5.4%	2	2.2%
無回答	0	0.0%	4	0.4%	2	2.2%

7-1 現在の外国語活動における児童への評価材料について、該当する項目を全て選んでください。



質問 7 (7-1)

◎「⑧その他の評価材料」の設置者別具体的回答

国立	パフォーマンス
国立	英検 Jr.受検
公立	ふり返りカード (review cards)
公立	児童のふりかえりカード
公立	振り返りカードへの記述
公立	ふり返りカード (記述式) の内容
公立	活動実践記録
公立	通知票に単元名のみ記入
公立	パフォーマンステスト
公立	ALT が簡単な質問をして、それに英語で応える方法
公立	面接での口頭でテスト
公立	プレゼンテーション
公立	TOEFL
私立	スピーキングテスト
私立	スピーキングテスト
私立	スピーチの発表
私立	プレゼンテーションを行っている
私立	発表、作品作製
私立	ネイティブ教師と 1 対 1 のインタビュー
私立	音読宿題の提出具合
私立	実用英検・英検 Jr.等の結果を参考とする
私立	ケンブリッジ：ヤングラーナーズテスト

7-2 外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査(テスト)が必要とされますか。最も該当する項目を1つ選んでください。

◎総合比較

「④必要だとは思わない」が39.2%で最も多く、33.6%で「③どちらかといえば必要だとは思わない」が続く。選択肢③と④の合計の72.8%が考査(テスト)を必要とは考えていないことがわかる。こうした傾向は昨年度調査とほぼ同様である。

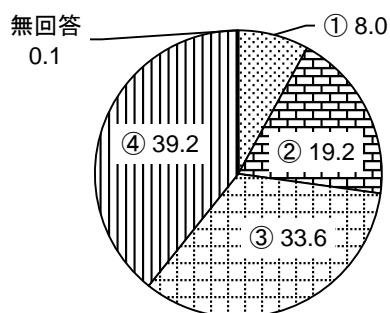
◎設置者別比較

これも質問7-1と同様に、設置者別によって回答傾向が異なる。すなわち、私立では「①必要だと思う」が40.4%で、4つの選択肢で最多を占めるのに対し、国立では10.7%、公立では5.1%と4選択肢中最少である。

これ以外に目立つのは、国立の「②どちらかといえば必要だと思う」が昨年度の18.8%から35.7%とほぼ倍増、「③どちらかといえば必要だとは思わない」が34.4%から17.9%とほぼ半減していることである。また私立では、「②どちらかといえば必要だと思う」が昨年度の18.6%から30.3%へと約1.6倍に増加した一方で、「④必要だとは思わない」は14.3%から7.9%へとほぼ半減した。公立では昨年度とほぼ同様の傾向である。

◎総合比較

選択肢	回答数	N=1,144
① 必要だと思う	91	8.0%
② どちらかといえば必要だと思う	220	19.2%
③ どちらかといえば必要だとは思わない	384	33.6%
④ 必要だとは思わない	448	39.2%
無回答	1	0.1%

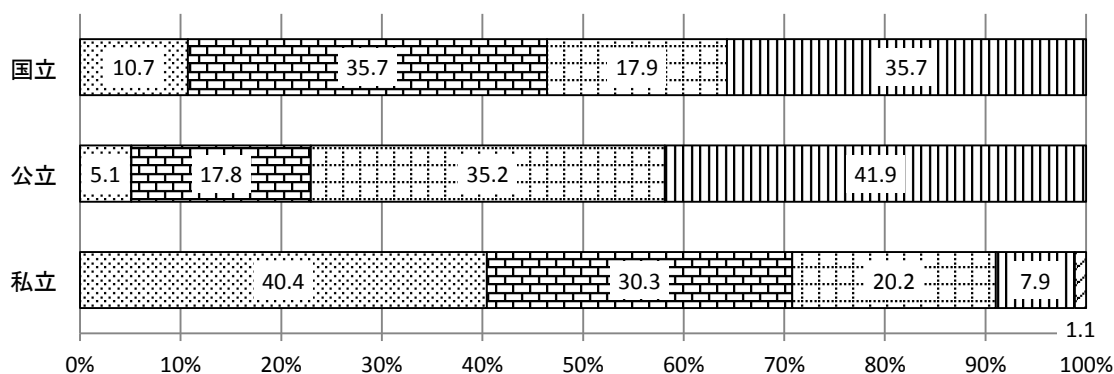


◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=28	回答数	N=1,020	回答数	N=89
① 必要だと思う	3	10.7%	52	5.1%	36	40.4%
② どちらかといえば必要だと思う	10	35.7%	182	17.8%	27	30.3%
③ どちらかといえば必要だとは思わない	5	17.9%	359	35.2%	18	20.2%
④ 必要だとは思わない	10	35.7%	427	41.9%	7	7.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%

7-2 外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査(テスト)が必要とされますか。最も該当する項目を1つ選んでください。

- ① 必要だと思う
- ② どちらかといえば必要だと思う
- ③ どちらかといえば必要だとは思わない
- ④ 必要だとは思わない
- 無回答



質問 7 (7-3)

7-3 7-2 で「1. 必要だと思う」「2. どちらかといえば必要だと思う」を選ばれた方だけに伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

◎総合比較

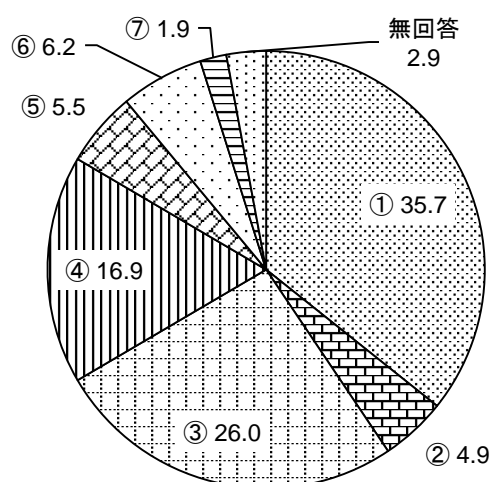
昨年度の質問における考査（テスト）が必要な理由の記述回答から、「その他」を含めた7つに選択肢を絞り込み、今回独立した設問とした。選択肢の中で最もパーセンテージが高かったのは「①習熟度を把握するために必要である」の35.7%である。以下、「③客観的な評価を行うために必要である」の26.0%、「④指導法の研究・改良につながる」の16.9%と続き、それ以外は10%に満たなかった。

◎設置者別比較

対照的な結果になることの多い公立と私立が、この設問に関してはよく似た傾向を示している。ただし、国立と私立では「⑥児童の意欲向上につながる」と回答したものも多かった。国立は「①習熟度を把握するために必要である」が7.7%で、他に比べ5分の1程度と少ない。母数が少ないため、これだけで回答傾向を推測するには無理があるが、「④指導法の研究・改良につながる」が23.1%というのは、国立の場合は附属校が多いからと推測される。

◎総合比較

選択肢	回答数	N=308
① 習熟度を把握するために必要である	110	35.7%
② 技能を測るために必要である	15	4.9%
③ 客観的な評価を行うために必要である	80	26.0%
④ 指導法の研究・改良につながる	52	16.9%
⑤ 中学入学時のギャップを埋めることができる	17	5.5%
⑥ 児童の意欲向上につながる	19	6.2%
⑦ その他	6	1.9%
無回答	9	2.9%



◎「⑦その他」の記述回答

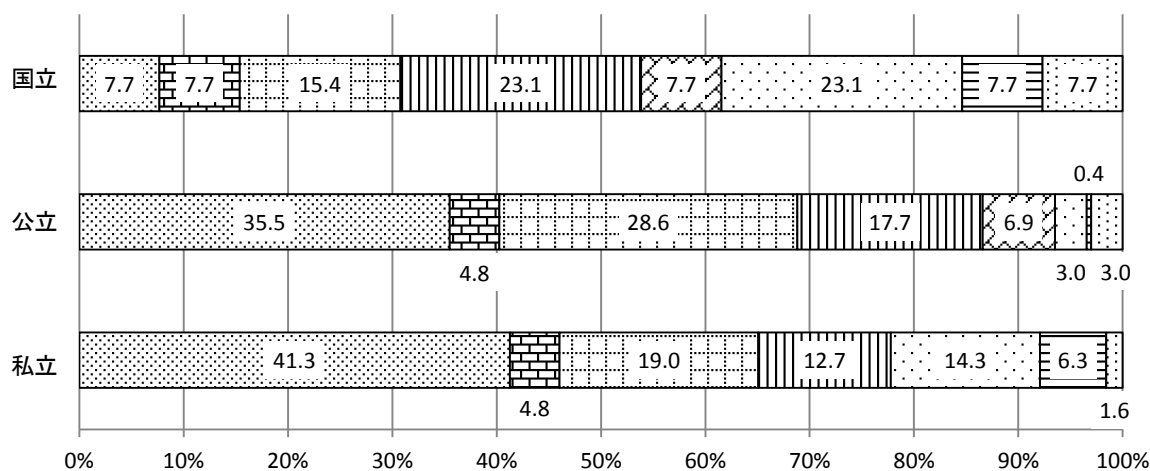
児童の意欲向上の為の口述テストを行えばよい
興味・関心を高められたかどうかを問う
カリキュラム（シラバス）を作り、達成度を見ることが教育者の役割だから
習熟度の把握と次の目標設定のために必要である
「教科」となったと考えると、評価の材料にしたい

◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=13	回答数	N=231	回答数	N=63
① 習熟度を把握するために必要である	1	7.7%	82	35.5%	26	41.3%
② 技能を測るために必要である	1	7.7%	11	4.8%	3	4.8%
③ 客観的な評価を行うために必要である	2	15.4%	66	28.6%	12	19.0%
④ 指導法の研究・改良につながる	3	23.1%	41	17.7%	8	12.7%
⑤ 中学入学時のギャップを埋めることができる	1	7.7%	16	6.9%	0	0.0%
⑥ 児童の意欲向上につながる	3	23.1%	7	3.0%	9	14.3%
⑦ その他	1	7.7%	1	0.4%	4	6.3%
無回答	1	7.7%	7	3.0%	1	1.6%

7-3 7-2で「1. 必要だと思う」「2. どちらかといえば必要だと思う」を選ばれた方だけに伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

- ① 習熟度を把握するために必要である
- ② 技能を測るために必要である
- ③ 客観的な評価を行うために必要である
- ④ 指導法の研究・改良につながる
- ⑤ 中学入学時のギャップを埋めることができる
- ⑥ 児童の意欲向上につながる
- ⑦ その他
- 無回答



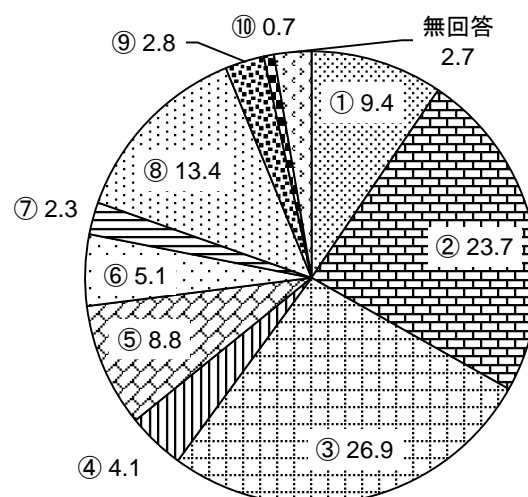
質問 7 (7-4)

7-4 7-2 で「3. どちらかといえば必要だとは思わない」「4. 必要だとは思わない」を選ばれた方のみに伺います。その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

質問 7-3 と同様の理由で、今回独立した設問とした。「③外国語・異文化に親しむことができれば十分である」の 26.9% と、「②外国語活動のねらい (3 観点) にそぐわないと思う」の 23.7% が並び、合計すると半数を占めた。これら以外では「⑧児童の苦手意識につながる可能性がある」が 13.4% と 10% を超えている。現時点における文部科学省の外国語活動・英語活動の指導方針からすれば、こうした回答が多くなるのもある意味で当然と言えるだろう。

なお、設置者別による差はあまり見られなかった。

選択肢	回答数	N=826
① 評価規準が明確でない	78	9.4%
② 外国語活動のねらい (3 観点) にそぐわないと思う	196	23.7%
③ 外国語・異文化に親しむことができれば十分である	222	26.9%
④ 評価するなら指導法を変えるべきだと思う	34	4.1%
⑤ 教科化された時点で実施することだと思う	73	8.8%
⑥ 中学以降で実施することだと思う	42	5.1%
⑦ 準備体制が整っていない状況である	19	2.3%
⑧ 児童の苦手意識につながる可能性がある	111	13.4%
⑨ 児童の負担が増える可能性がある	23	2.8%
⑩ その他	6	0.7%
無回答	22	2.7%



◎ 「⑩その他」の記述回答

評価できるほど力をつけられるような授業がおこなわれていない
授業者が英語の専門家でない今の現状で評価するのは、ムリである。(子どもに失礼だ)
活動がテストのための活動になる恐れがある
希望者はどんどんすべき。全員一斉は反対
評価の為の授業になる恐れがある
幼稚園の子が生活を学ぶのと同じように、生活の一部にしたいため

質問 8 現在、貴校の 5・6 年生の外国語活動において、問題や課題であると感じていることはありますか。1～11 の選択肢の中から該当する項目を上位 3 つまで選び、優先度が高い順に 1 位、2 位、3 位として、その選択肢番号をご記入ください。

◎総合比較

1 位 3 点、2 位 2 点、3 位 1 点とし、その合計を総得点とした。昨年度とは回答数が異なることから、総得点の比較はしていない。

総得点の 1 位は「⑤教員（HRT 等）の指導力・技術」で 1,729 点、2 位が「①指導内容・方法」1,363 点、3 位が「⑥ALT との連携および打ち合わせ時間」994 点、4 位が「③評価内容・方法」665 点と続き、ここまでの順位は昨年度と同じである。5 位以下についても、順位の変動はあるものの大きな変化は見られない。

◎設置者別比較

「①指導内容・方法」については国・公立とも共通して多くの学校が問題・課題と感じていることがわかる。

回答順位が総合比較と異なるものをいくつか取り上げてみよう。公立は、ほぼ総合比較と同じ順位であるが、国・私立は総合比較と異なる傾向をいくつか指摘できる。まず、総合比較で 9 位の「②指導計画」が国立で 4 位に、私立でも 3 位に入っており、総合比較との違いを見せている。さらに私立では、総合比較で 7 位の「⑧中学校との連携」が 2 位、総合比較で 1 位の「⑤教員（HRT 等）の指導力・技術」が 4 位、総合比較で 3 位の「⑥ALT との連携及び打ち合わせ」が 10 位となっている。「⑤教員（HRT 等）の指導力・技術」と「⑥ALT との連携及び打ち合わせ」が私立で順位を下げているのは、もともと英語専科教員が多く制度的にも ALT に頼る例が少ないからと考えられる。

「⑪その他」の記述回答を見ると、公立においては、HRT の過重負担や、ALT・JTE に関する問題の指摘が多い。

※この質問の選択肢は以下のとおり。次ページ以降の分析記事では、選択肢はすべて総得点の降順配列となっている。

- ① 指導内容・方法
- ② 指導計画
- ③ 評価内容・方法
- ④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）
- ⑤ 教員（HRT 等）の指導力・技術
- ⑥ ALT との連携及び打ち合わせ時間
- ⑦ 教員研修（質、回数等）
- ⑧ 中学校との連携
- ⑨ 教員間意識の違い
- ⑩ 設備の改善・維持
- ⑪ その他

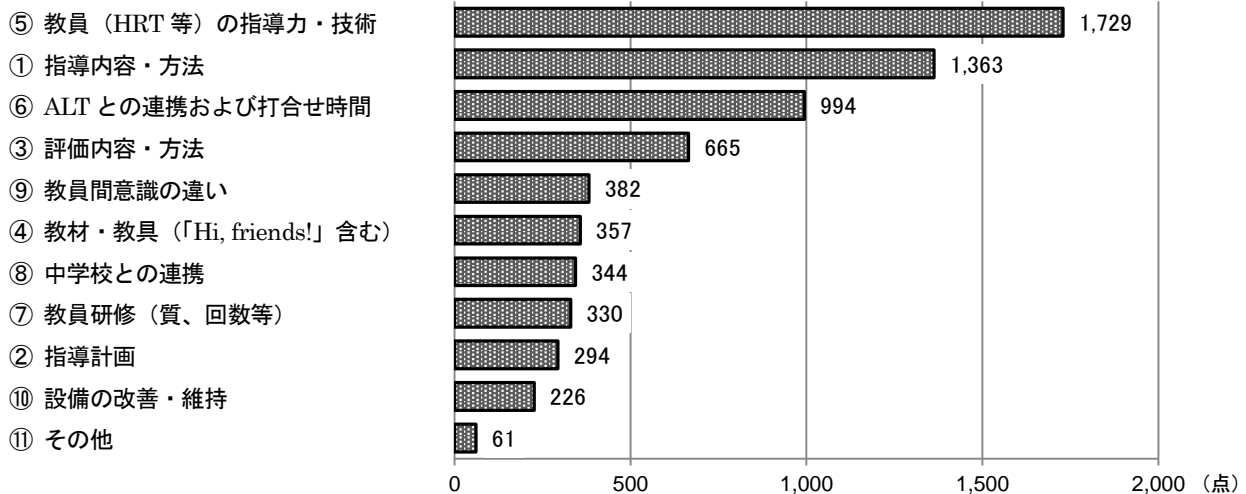
質問 8

◎総合比較 (※総得点降順表示)

(1位3点、2位2点、3位1点で換算)

選択肢	総得点	回答数	1位	2位	3位
⑤ 教員 (HRT 等) の指導力・技術	1,729	743	373	240	130
① 指導内容・方法	1,363	625	274	190	161
⑥ ALT との連携及び打ち合わせ時間	994	503	155	181	167
③ 評価内容・方法	665	383	70	142	171
⑨ 教員間意識の違い	382	212	47	76	89
④ 教材・教具 (「Hi, friends!」含む)	357	201	44	68	89
⑧ 中学校との連携	344	204	42	56	106
⑦ 教員研修 (質、回数等)	330	196	31	72	93
② 指導計画	294	152	42	58	52
⑩ 設備の改善・維持	226	119	36	35	48
⑪ その他	61	24	17	3	4

質問 8 現在、貴校の 5・6 年生の外国語活動において、問題や課題であると感じていることはありますか。



◎「⑪その他」の設置者別記述回答

国立	意義の見極め
公立	JTE との打ち合わせ時間
公立	授業時間の確保
公立	教材等の準備、計画作りの時間の確保
公立	担任の負担が大きい
公立	行事準備や他の授業等が多く、とても外国語の研修、ALT との打ち合わせなどできない
公立	教員に余裕がない
公立	教員の負担
公立	担任ではなく、専科を！！
公立	専門教員を配置すること
公立	HRT に全てまかせようとするのが一番の問題です。英語専門の人を活用すべき
公立	JTE の先生を導入してほしい
公立	ALT の配置に自治体により差がある
公立	ALT の質
公立	ALT が月に 1 回しか来校しない
公立	ICT 機器整備の不十分さ
公立	塾などで英語を習っている子とそうでない子の意識や習熟度の差
私立	ALT / 外国人英語教師の質
私立	採用のやり方 特にネイティブ
私立	新人の採用・育成
私立	児童の学習観と教諭の教材観
私立	学校全体としての取り組みがなく、英語は専科にまかされているが非常勤なので色々改善するには、限界が有る
私立	児童個々の能力差の拡大

◎設置者別比較（※総得点降順表示・右の棒グラフは総得点）（1位3点、2位2点、3位1点で換算）

【国立】

選択肢	総得点	0	20	40	回答数	1位	2位	3位
① 指導内容・方法	29				12	7	3	2
⑤ 教員（HRT等）の指導力・技術	28				13	5	5	3
③ 評価内容・方法	20				12	2	4	6
② 指導計画	18				8	3	4	1
⑥ ALTとの連携及び打ち合わせ時間	16				8	3	2	3
⑨ 教員間意識の違い	13				7	2	2	3
⑧ 中学校との連携	11				7	1	2	4
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	8				4	1	2	1
⑩ 設備の改善・維持	6				2	2	0	0
⑦ 教員研修（質、回数等）	4				3	0	1	2
⑪ その他	3				1	1	0	0

【公立】

選択肢	総得点	0	1,000	2,000	回答数	1位	2位	3位
⑤ 教員（HRT等）の指導力・技術	1,643				700	360	223	117
① 指導内容・方法	1,195				553	234	174	145
⑥ ALTとの連携及び打ち合わせ時間	959				483	150	176	157
③ 評価内容・方法	594				338	64	128	146
⑨ 教員間意識の違い	337				189	41	66	82
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	313				177	39	58	80
⑦ 教員研修（質、回数等）	307				183	29	66	88
⑧ 中学校との連携	251				160	24	43	93
② 指導計画	207				111	29	38	44
⑩ 設備の改善・維持	185				99	28	30	41
⑪ その他	44				16	13	2	1

【私立】

選択肢	総得点	0	100	200	回答数	1位	2位	3位
① 指導内容・方法	126				55	29	13	13
⑧ 中学校との連携	76				34	17	8	9
② 指導計画	67				32	10	15	7
⑤ 教員（HRT等）の指導力・技術	49				26	6	11	9
③ 評価内容・方法	46				31	3	9	19
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	34				18	4	8	6
⑩ 設備の改善・維持	33				17	6	4	7
⑨ 教員間意識の違い	30				14	4	8	2
⑦ 教員研修（質、回数等）	19				10	2	5	3
⑥ ALTとの連携及び打ち合わせ時間	18				11	2	3	6
⑪ その他	14				7	3	1	3

質問 9

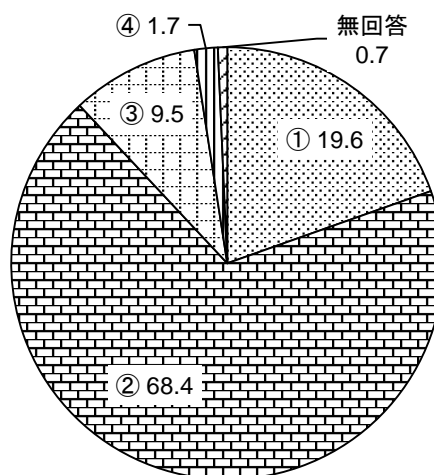
質問 9 外国語活動必修化から4年以上が経ちましたが、貴校での5・6年生での外国語活動は順調に進んでいると思われますか。最も該当する項目を1つ選んでください。

「②課題はあるが、進んでいる」の68.4%が最多で、昨年度の69.0%とほぼ同様である。次いで「①順調に進んでいる」の19.6%で、全体の順位やパーセンテージは昨年度と大きく変わらない。

「①順調に進んでいる」と「②課題はあるが、進んでいる」の合計が88.0%（昨年度86.0%）、「③課題があり不安が残る」と「④順調に進んでいるとはいえない」の合計が11.2%（昨年度12.5%）で、順調に進んでいるという意見が昨年同様大半を占め、外国語活動の必修化は概ね順調に進んでいると考える学校が多いことがわかった。

なお、設置者による回答傾向の差に目立つものはなかった。

選択肢	回答数	N=1,144
① 順調に進んでいる	224	19.6%
② 課題はあるが、進んでいる	783	68.4%
③ 課題があり不安が残る	109	9.5%
④ 順調に進んでいるとはいえない	20	1.7%
無回答	8	0.7%



質問 10 外国語活動及び英語活動の導入により、貴校（教員・児童）に生じた影響や変化はありますか。該当する項目を全て選んでください。

◎総合比較

選択肢①から⑤までが児童の理解・能力の向上といったプラス面の影響・変化であり、選択肢⑥から⑩までが教員の指導に対する悩みや負担などのマイナス面の影響・変化となっている。

外国語活動及び英語活動の導入が与える影響や変化について最も多かった回答は、「①児童の外国語や異文化への理解の向上」69.7%（昨年度 66.2%）で、昨年度同様最多だった。次いで「⑦教員の指導力、英語力等、力量に関する悩み」が 52.3%（昨年度 51.1%）、以下「⑩ALT との打ち合わせ時間や連携不足」が 44.0%（昨年度 38.8%）、「⑥教員の負担（仕事量、時間等）」が 43.4%（昨年度 45.7%）、「②児童のコミュニケーション能力や積極性の向上」が 41.0%（昨年度 45.4%）、「③児童の英語力（リスニング力等）の向上」が 39.0%（昨年度 44.5%）であり、ここまですべて大きな割合を占めている。

以上のうち、選択肢①・②・③がプラス面の影響・変化、選択肢⑥・⑦・⑩がマイナス面の影響・変化となっており、プラスとマイナスの双方が併存していることがわかる。順位やパーセンテージに若干の変化はあるが、全体的に見て昨年度との大きな違いは見られなかった。

◎設置者別比較

今回も、先に述べたプラス面とマイナス面の影響という点で、国・公立と私立とで違いが見られた。国・公立ではマイナス面を指摘する回答が多く、私立では少ないことである。特に「⑥教員の負担（仕事量、時間等）」と「⑦教員の指導力、英語力等、力量に関する悩み」が国・公立で 50%前後が選択しているのに比べ、私立ではその半分以下である。

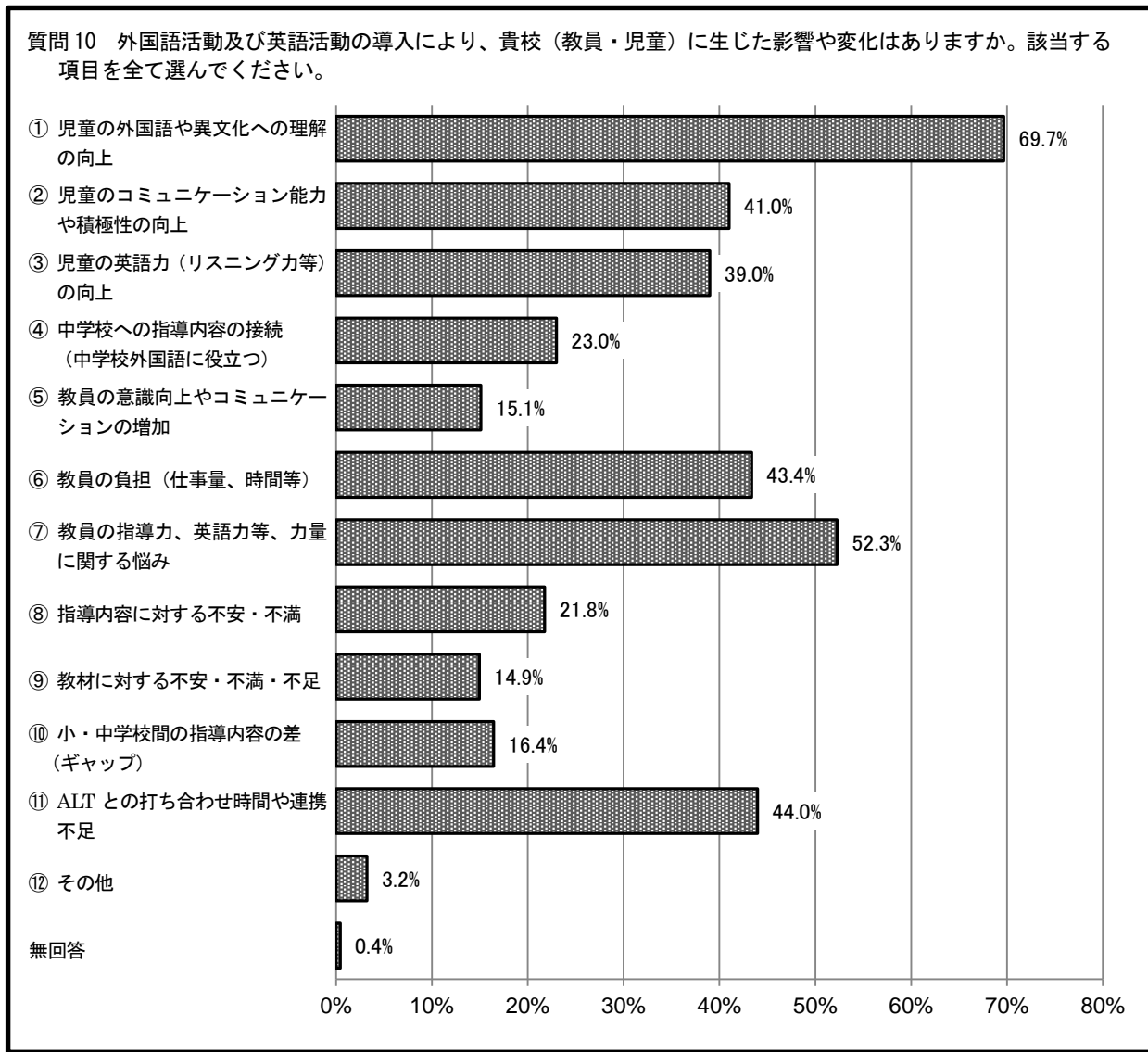
「⑧指導内容に対する不安・不満」と「⑨教材に対する不安・不満・不足」も、国立では多く指摘されているが、私立では「⑧指導内容に対する不安・不満」が国立の半分以下、「⑨教材に対する不安・不満・不足」は 3 分の 1 程度にとどまっている。また、私立においては、「③児童の英語力（リスニング力等）の向上」が、国・公・私立全てで最多となっている「①児童の外国語や異文化への理解の向上」とほぼ同じ 67.4%を占めている。私立では、外国語や異文化理解と同時に、学力としての英語力向上にも目を向けていることがうかがえた。全体的には、昨年度との大きな違いは見られなかった。

「⑫その他」の記述回答では、私立では「すでに長年英語教育を実施してきたので、最近特別の変化はない」という回答が目立った。小学校における英語教育の実践経験という点で、私立と国・公立の大きな差があることがうかがえた。

質問 10

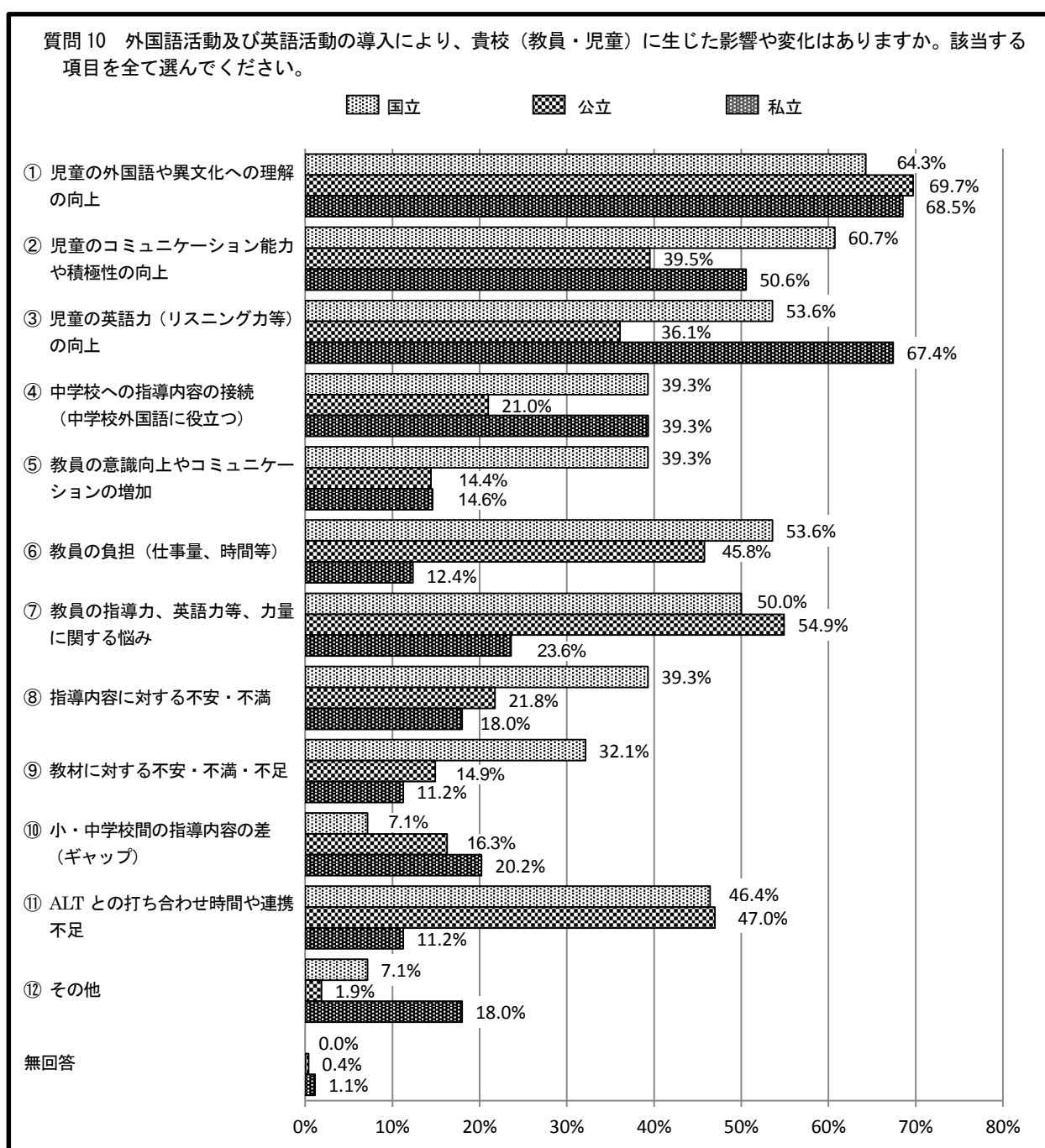
◎総合比較

選択肢	回答数	N=1,144
① 児童の外国語や異文化への理解の向上	797	69.7%
② 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上	469	41.0%
③ 児童の英語力（リスニング力等）の向上	446	39.0%
④ 中学校への指導内容の接続（中学校外国語に役立つ）	263	23.0%
⑤ 教員の意識向上やコミュニケーションの増加	173	15.1%
⑥ 教員の負担（仕事量、時間等）	496	43.4%
⑦ 教員の指導力、英語力等、力量に関する悩み	598	52.3%
⑧ 指導内容に対する不安・不満	249	21.8%
⑨ 教材に対する不安・不満・不足	171	14.9%
⑩ 小・中学校間の指導内容の差（ギャップ）	188	16.4%
⑪ ALT との打ち合わせ時間や連携不足	503	44.0%
⑫ その他	37	3.2%
無回答	5	0.4%



◎設置者別比較

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	N=28	回答数	N=1,020	回答数	N=89
① 児童の外国語や異文化への理解の向上	18	64.3%	711	69.7%	61	68.5%
② 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上	17	60.7%	403	39.5%	45	50.6%
③ 児童の英語力（リスニング力等）の向上	15	53.6%	368	36.1%	60	67.4%
④ 中学校への指導内容の接続（中学校外国語に役立つ）	11	39.3%	214	21.0%	35	39.3%
⑤ 教員の意識向上やコミュニケーションの増加	11	39.3%	147	14.4%	13	14.6%
⑥ 教員の負担（仕事量、時間等）	15	53.6%	467	45.8%	11	12.4%
⑦ 教員の指導力、英語力等、力量に関する悩み	14	50.0%	560	54.9%	21	23.6%
⑧ 指導内容に対する不安・不満	11	39.3%	222	21.8%	16	18.0%
⑨ 教材に対する不安・不満・不足	9	32.1%	152	14.9%	10	11.2%
⑩ 小・中学校間の指導内容の差（ギャップ）	2	7.1%	166	16.3%	18	20.2%
⑪ ALT との打ち合わせ時間や連携不足	13	46.4%	479	47.0%	10	11.2%
⑫ その他	2	7.1%	19	1.9%	16	18.0%
無回答	0	0.0%	4	0.4%	1	1.1%



質問 10

◎「⑫その他」の記述回答

国立	ALT 確保の難しさ
国立	他の教科の授業時数の不足
公立	外国語への興味が高まった
公立	英語に対する興味や関心が高まった
公立	外国人に対する興味・関心
公立	中学校の教員も授業で指導しているので、外国語だけに関わらず中学校との接続としてよい
公立	⑩まではいかないが、小中での話し合いや様子を伝え合うことができるようになった
公立	以前から特区で実施しているので特になし
公立	当市は特区として英語を 10 年つづけているため、指導計画等蓄積されているものもあるため、この 4 年と考えると、大きな変化はない
公立	外国語活動担当者の金銭的負担増
公立	授業数の確保、時間割の調整が大変である。(高学年)
公立	ALT の勤務時間をふやしてほしい
公立	学校間の指導内容の差。誰でも指導できる体制が必要
公立	ALT に任せている。ALT によって指導力に差が出る
公立	ICT 機器整備の不十分さ
公立	ICT 機器の整備の遅れ (各教室)
公立	子ども達の英語に対する苦手意識が増えた。小学生のうちから、「英語ができる、できない」と劣等感を持っている
公立	評価
私立	保護者、家庭の意識、理解の向上
私立	以前より 1 年生から英語があったので、小学校単体での変化はありません
私立	必修化前よりあり。特に影響はない
私立	以前より導入している為特に変化なし
私立	以前から導入していたので変化はない
私立	それ以前からイマージョン教育を行っているため、4 年前からの変化ではない
私立	本校は創立以来 1 年生から英語教育を実施しているので劇的変化はないと思います
私立	開校当初より導入しているのでこの項目は該当しない
私立	開校当初から英語授業があるので変化はありません
私立	創立当時から導入しているので
私立	外国語活動を 40 年以上前より行っている学校です
私立	本校ではそれ以前から英語教育をしているので、導入による変化はありません
私立	導入前を知らないので答えられません
私立	不明 (昔のことなので変化がわかりません)
私立	児童の苦手意識
私立	担任の英語指導の見方
公立	外国語への興味が高まった
公立	英語に対する興味や関心が高まった

2. 調査票

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査
 (公益財団法人 日本英語検定協会・一般財団法人 日本生涯学習総合研究所／平成 27 年 12 月実施)



- 調査票は、同封の返送用封筒(切手不要)で、**1月15日(金)**までにご投函ください。
- ご回答内容は、コンピュータで自動処理されます。下図の要領で調査票の回答箇所をチェックしてください。
- 回答数指定の質問項目がありますので、ご注意ください。

<お問い合わせ先> 一般財団法人 日本生涯学習総合研究所 調査課:石原(03-3539-3786)

<チェックの要領>



[1]属性

◆ 貴校の属性情報をお答えください。

所在地 都・道・府・県

設置者区分 1. 国立 2. 公立 3. 私立

小中一貫校 1. はい 2. いいえ

ご回答者の職位 * 該当する職位に近いものを選んでください。

1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 主任 4. 教員
 5. ALT(外国人指導助手) 6. JTE(外国語活動指導員) 7. 非常勤教員(ALT・JTE 以外)
 8. 外国語活動以外の講師 9. その他

ご回答者の年代

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代以上

全校児童数

1. 50名未満 2. 50名以上～100名未満 3. 100名以上～200名未満
 4. 200名以上～500名未満 5. 500名以上～800名未満 6. 800名以上

[2]小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

◆ 以下のアンケートにお答えください。

質問1 「外国語活動及び英語活動のご担当者」について伺います。

1-1 貴校での現在の外国語活動及び英語活動のご担当者を、学年群ごとに全て選んでください。

《例》 5・6年生で「HRT(学級担任)」と「ALT」が担当している場合:5・6年生の欄の1と3.両方にチェック

- 【5・6年生】 1. HRT 2. 英語専科教員 3. ALT 4. JTE 5. その他
 【3・4年生】 1. HRT 2. 英語専科教員 3. ALT 4. JTE 5. その他
 【1・2年生】 1. HRT 2. 英語専科教員 3. ALT 4. JTE 5. その他

1-2 現時点での実施の有無にかかわらず、今後外国語活動及び英語活動を展開する際に望ましいと思われるご担当者を、学年群ごとに全て選んでください。

- 【5・6年生】 1. HRT 2. 英語専科教員 3. ALT 4. JTE 5. その他
 【3・4年生】 1. HRT 2. 英語専科教員 3. ALT 4. JTE 5. その他
 【1・2年生】 1. HRT 2. 英語専科教員 3. ALT 4. JTE 5. その他

質問2 1・2年生の英語活動について伺います。

2-1 貴校の1・2年生の英語活動についてのお考えを1つ選んでください。

1. 5・6年生同様に必要 2. 時間数が少なくても必要 3. どちらかといえば必要
 4. あってもなくても構わない 5. どちらかといえば必要ない 6. 必要ない 7. わからない



00000000XmD





2-2 2-1で、「1. 5・6年生同様に必要」「2. 時間数が少なくても必要」「3. どちらかといえば必要」を選ばれた方のみに伺います。

その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

1. コミュニケーション能力の育成につながる
2. 異文化への理解を深めることができる
3. 早い段階から英語に触れさせた方が効果的である
4. 5・6年生の外国語活動の準備として必要である
5. その他

2-3 2-1で、「5.どちらかといえば必要ない」「6.必要ない」を選ばれた方のみに伺います。

その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

1. 他教科を優先したい(している)
2. 教員の確保が難しい
3. 指導計画や教材等が整っていない
4. その他

質問3 外国語活動及び英語活動に関する「教員研修・自己学習」について伺います。

3-1 平成27年度の4～12月までに貴校の先生方は外国語活動及び英語活動に関する研修会や研究発表会に参加(実施)されましたか。または、同年度の3月までに参加(実施)予定はありますか。該当する項目を1つ選んでください。

1. 参加(実施)している(予定がある)
2. 参加(実施)していない(予定はない)
3. わからない

3-2 現在、参加されている教員研修(または自己学習)に該当する項目を全て選んでください。

1. 公費(または無料)で集合研修(教育委員会や学校主催の研修やセミナー等)に参加している
2. 公費(または無料)で自己学習(英会話学校、eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用)している
3. 自費(または有料)で集合研修(外部団体の主催する学会やセミナー等)に参加している
4. 自費(または有料)で自己学習(英会話学校、eラーニング、通信教育、書籍、教材等の利用)している
5. その他

3-3 最も必要と思われる教員研修の内容を1つ選んでください。

1. 指導法
2. カリキュラム等指導計画
3. ALTやJTE(ボランティア含む)等との連携に関する内容
4. 教員自身の英語力向上に関する内容
5. 評価方法
6. 他校の実施事例
7. その他

質問4 貴校の5・6年生の外国語活動における「モジュールの活用」について伺います。

4-1 外国語(英語)の授業にモジュールを利用することについて、最も該当する項目を1つ選んでください。

1. よい(または効果的だ)と思う
2. よい(または効果的だ)とは思わない
3. どちらともいえない

4-2 4-1で「1. よい(または効果的だ)と思う」を選ばれた方のみに伺います。

その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

1. 外国語(英語)は短時間でも多く触れた方がよい
2. 外国語(英語)の時間確保が難しい場合、モジュールが活用できる
3. 外国語(英語)活動に必要な準備等のための教員の負担が少なくなる
4. 普通の授業を補う内容(復習や実践等)ができる
5. 朝の時間や休み時間等を有効に活用できる
6. その他

4-3 5・6年生の外国語活動が教科化された場合、貴校においてより望ましいと思われる1週間あたりの時間及び形態を1つ選んでください。

1. 授業1時間(45分)
2. 授業2時間(45分2回)
3. 10分間のモジュール4～5回(授業1時間分)
4. 15分間のモジュール3回(授業1時間分)
5. 授業1時間と10分間のモジュール4～5回(授業1時間分)
6. 授業1時間(45分)と15分間のモジュール6回(授業2時間分)
7. その他



000000000Xni





質問 5 貴校の 5・6 年生の外国語活動における「ICT(デジタル)機器及びその他の機材」の使用について伺います。

5-1 ICT(デジタル)機器及びその他の機材を使用していますか。該当する項目を 1 つ選んでください。

1. 0 使用している 2. 0 使用していない

5-2 5-1 で「1.使用している」を選ばれた方のみにお問い合わせ。

5-2-1 現在、使用している ICT 機器及びその他の機材を全て選んでください。

	電子黒板	タブレット	PC	電子辞書	CD プレーヤー	テレビ	その他
先生が使用	1. <input type="radio"/> 0	2. <input type="radio"/> 0	3. <input type="radio"/> 0	4. <input type="radio"/> 0	5. <input type="radio"/> 0	6. <input type="radio"/> 0	7. <input type="radio"/> 0
児童が使用	1. <input type="radio"/> 0	2. <input type="radio"/> 0	3. <input type="radio"/> 0	4. <input type="radio"/> 0	5. <input type="radio"/> 0	6. <input type="radio"/> 0	7. <input type="radio"/> 0

5-2-2 授業 1 時間(45 分)あたりの使用時間について、最も該当する項目を 1 つ選んでください。

1. 0 5 分未満 2. 0 5 分以上～10 分未満 3. 0 10 分以上～20 分未満
4. 0 20 分以上～30 分未満 5. 0 30 分以上

5-3 将来的に使用してみたいと思われる ICT 機器及びその他の機材を使用者(先生または児童)ごとに全て選んでください。

	電子黒板	タブレット	PC	電子辞書	CD プレーヤー	テレビ	その他
先生が使用	1. <input type="radio"/> 0	2. <input type="radio"/> 0	3. <input type="radio"/> 0	4. <input type="radio"/> 0	5. <input type="radio"/> 0	6. <input type="radio"/> 0	7. <input type="radio"/> 0
児童が使用	1. <input type="radio"/> 0	2. <input type="radio"/> 0	3. <input type="radio"/> 0	4. <input type="radio"/> 0	5. <input type="radio"/> 0	6. <input type="radio"/> 0	7. <input type="radio"/> 0

質問 6 「5・6 年生で読み書きを含めた指導を行う」ことについて伺います。

6-1 5・6 年生で読み書きを含めた指導を行うことについて、最も該当する項目を 1 つ選んでください。

1. 0 賛成である 2. 0 どちらかといえば賛成である
3. 0 どちらかといえば反対である 4. 0 反対である

6-2 6-1 で、「1. 賛成である」「2. どちらかといえば賛成である」を選んだ方のみにお問い合わせ。

その理由として、最も該当する項目を 1 つ選んでください。

1. 0 中学校での学習との連携が取れる 2. 0 文字学習に効果的な学年である
3. 0 中学入学前に文字への抵抗感が減る 4. 0 児童が文字に関心を示している
5. 0 「読む」だけなら良い 6. 0 アルファベットであれば良い
7. 0 簡単な単語(3 文字単語等)であれば良い 8. 0 児童の学習内容に合っていれば良い
9. 0 活動時間が増えるなら行っても良い 10. 0 その他 []

6-3 6-1 で、「3. どちらかといえば反対である」「4. 反対である」を選んだ方のみにお問い合わせ。

その理由として、最も該当する項目を 1 つ選んでください。

1. 0 児童にとって負担や不安がある 2. 0 別の指導内容(活動)を優先すべき
3. 0 指導する余裕が(教員に)ない 4. 0 教員の負担が増える
5. 0 専門教員でないと指導できない 6. 0 その他 []

質問 7 5・6 年生の外国語活動における「評価」について伺います。

7-1 現在の外国語活動における児童への評価材料について、該当する項目を全て選んでください。

1. 0 授業内での観察・記録 2. 0 児童への意識調査(活動は楽しいか等)
3. 0 発言の内容や回数チェック 4. 0 ワークシートやノートの記入結果
5. 0 児童の自己評価(どこができたか等) 6. 0 授業内で行う小テストの結果
7. 0 単元ごとのテストや学期末のテストの結果 8. 0 その他の評価材料
9. 0 評価は実施していない []





7-2 外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査(テスト)が必要と思われますか。最も該当する項目を1つ選んでください。

- 1. 必要だと思う
- 2. どちらかといえば必要だと思う
- 3. どちらかといえば必要だとは思わない
- 4. 必要だとは思わない

7-3 7-2で「1.必要だと思う」「2.どちらかといえば必要だと思う」を選ばれた方のみ伺います。

その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

- 1. 習熟度を把握するために必要である
- 2. 技能を測るために必要である
- 3. 客観的な評価を行うために必要である
- 4. 指導法の研究・改良につながる
- 5. 中学入学時のギャップを埋めることができる
- 6. 児童の意欲向上につながる
- 7. その他

7-4 7-2で「3.どちらかといえば必要だとは思わない」「4.必要だとは思わない」を選ばれた方のみ伺います。

その理由として、最も該当する項目を1つ選んでください。

- 1. 評価規準が明確でない
- 2. 外国語活動のねらい(3観点)にそぐわないと思う
- 3. 外国語・異文化に親しむことができれば十分である
- 4. 評価するなら指導法を変えるべきだと思う
- 5. 教科化された時点で実施することだと思う
- 6. 中学以降で実施することだと思う
- 7. 準備体制が整っていない状況である
- 8. 児童の苦手意識につながる可能性がある
- 9. 児童の負担が増える可能性がある
- 10. その他

質問 8 現在、貴校の5・6年生の外国語活動において、問題や課題であると感じていることはありますか。1～11の選択肢の中から該当する項目を上位3つまで選び、優先度が高い順に1位、2位、3位として、その選択肢番号をご記入ください。

<選択肢>

- 1. 指導内容・方法
- 2. 指導計画
- 3. 評価内容・方法
- 4. 教材・教具(「Hi, friends!」含む)
- 5. 教員(HRT等)の指導力・技術
- 6. ALTとの連携及び打ち合わせ時間
- 7. 教員研修(質、回数等)
- 8. 中学校との連携
- 9. 教員間意識の違い
- 10. 設備の改善・維持
- 11. その他

<優先度の順位>

1位	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	2位	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	3位	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>
----	---	---	----	---	---	----	---	---

※数字は右詰めで記入

質問 9 外国語活動必修化から4年以上が経ちましたが、貴校での5・6年生での外国語活動は順調に進んでいると思われますか。最も該当する項目を1つ選んでください。

- 1. 順調に進んでいる
- 2. 課題はあるが、進んでいる
- 3. 課題があり不安が残る
- 4. 順調に進んでいるとはいえない

質問 10 外国語活動及び英語活動の導入により、貴校(教員・児童)に生じた影響や変化はありますか。該当する項目を全て選んでください。

- 1. 児童の外国語や異文化への理解の向上
- 2. 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上
- 3. 児童の英語力(リスニング力等)の向上
- 4. 中学校への指導内容の接続(中学校外国語に役立つ)
- 5. 教員の意識向上やコミュニケーションの増加
- 6. 教員の負担(仕事量、時間等)
- 7. 教員の指導力、英語力等、力量に関する悩み
- 8. 指導内容に対する不安・不満
- 9. 教材に対する不安・不満・不足
- 10. 小・中学校間の指導内容の差(ギャップ)
- 11. ALTとの打ち合わせ時間や連携不足
- 12. その他

— 質問は以上です。ありがとうございました。 —



00000000Xp@



<平成 27 年 12 月調査>

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

報 告 書

平成 28 年 3 月

公益財団法人 日本英語検定協会
英語教育研究センター

〒162-8055 東京都新宿区横寺町 55
Tel. 03-3266-6706 / Fax. 03-3266-6740

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-20-10
Tel. 03-3539-3785 / Fax. 03-3539-3787
